

どうじん

道腎協結成十周年記念誌



北海道腎臓病患者連絡協議会 刊



道腎協結成十周年記念誌

北海道腎臓病患者連絡協議会 刊

どうじん

道腎協結成十周年記念誌

北海道腎臓病患者連絡協議会刊

序にかえて

北海道腎臓病患者連絡協議会

会長 岩崎

薫



人工腎臓が出現して二十余年、日本でそれが急速に進み、普及したのは、一九七二年（昭和四十七年）、近年における透析医療の進歩には著しいものがあります。過去私達が死に直面した危機意識のなか、厳しい食事制限、透析症候群、そして膨大な医療費、これらさまざまな苦しみに加え、仲間の死を目前にしながら、生きることを目的に闘ってきた十数年前と現在とを比べてみてもまったく様相を異にしておりません。そこには全腎協運動における人々の努力なしにはとうてい考えられないことなのです。この更生医療適用の頃から我が国では透析医療が急速に普及し、社会全般へと広がりを見せました。慢性腎炎、腎不全等をあつかう病院、医師、テクニシャン、看護婦も増え、研究改善の努力がなされてきたのもこの頃からと思われます。しかし透析医療の進歩につれて患者自身の意識の上にも大きな変化を見ることが出来ます。私達患者同士内部での長期透析患者そして最近新しく透析を始めた患者との間に透析医療、会の活動に対して、意識の格差が目立つようになってきました。このことは会活動の上にも一つのブレーキとなっているのです。

以前目の前で倒れて行く我が友を見「明日は我が身」と感じながら必死に乗り越えてきた長期透析患者そして透析医療の恩恵を初めから享受している患者との隔たりは少なからざるものがあります。今、北海

道には三三〇〇の透析患者がいるにもかゝらずそれに比して会活動を助けてくれる会員が少ない。このようなことは道腎協だけではなしに全腎協活動の大きな問題となっています。「今のところ別にさしさわりなく透析をしていて調子も良い。腎友会などは自分にとって必要ない」という患者が増えています。このことは私達皆で真剣に考えなければなりません。道腎協発足にあたって懸命努力の中倒れた役員の方々、に恥じないよう努力しなければなりません。

最近では夜間透析も多くの病院、医院でできるようになり働く機会も与えられるようになって来ましたが、そして腎移植についても以前と比べて格段に良い方向にむかっているのです。私達は忘れてはなりません。どんな時代でも共に力を合わせて生き抜くんだということを私達会員はこゝに次の活動へのステップとして十周年記念誌を発刊することになりました。この十年間私達を支え励ましてくださった医師の方々その他大勢の方々からも貴重な原稿をいただきました。北海道におけるさまざまな透析の歴史、活動史を集大成し、これからの一つの柱としようと考えたのです。さいわい道内の病院、諸先生方からも暖かい御賛同を戴き、私達会員の力でこゝに一冊の貴重な指標、記念誌を作ることができました。本当に感謝申し上げます。私達の未来へ向かって一步一步を各々の胸の中へ刻み込み、さまざまな苦しみ悩みを分かち合うと思えます。

十数年前ならば既にこの世の者でなかったであろう人々が、人工透析を我がものとし、社会のなかでたくましく生き抜き、力一杯生きることが私達に与えられた使命と思えます。

最後に道腎協十周年の歴史のなか、途中不幸にして逝去された療友に対し私達のそしてあなたたちのこの記念誌を捧げます。

最後のページまでお読み下されば幸いです。

第一章 各界からのメッセージ

道腎協創立十周年によせて	北海道知事	横路孝弘	8
「道腎協」十周年を迎えて	北海道議会議長	藤井猛	9
道腎協の発展を祈る	札幌医大名譽教授	高橋長雄	10
道腎協十周年を記念して	北海道透析医会々長	渡井幾男	11
「道腎協十周年記念の祝辞」	財団法人北海道腎臓バンク 理事長	武井正直	12
医療・福祉の向上・発展を	財団法人北海道難病連 専務理事・事務局長	伊藤たてお	13
道腎協十周年記念誌の発刊に寄せて	全国腎臓病患者連絡協議会 会長	伊藤たてお	14
道腎協十周年記念によせて	北海道医療社会事業協会顧問 医療ソーシャルワーカー	清水清	15
第二章 腎友会活動の想い出			
道腎協の十年	札幌腎臓病患者友の会 会長	鈴木啓三	18
充実した組織づくりに邁進	小樽後志地方腎友会 会長	津田嘉郎	19
最北の町で頑張る	稚内地方腎友会 会長	乙竹隆七	21
水無人と名付けて	留萌地方水無人腎友会 会長	池田利男	22
道南腎協結成以前	道南腎臓病患者連絡協議会 会長	中野龍一	23
先生、スタッフの協力を得て	苫小牧つくし会 会長	小林勝市	25
より良い透析生活を求め	室蘭地方腎友会 会長	石井俊光	26
一致協力、一丸となって	十勝地方腎友会 会長	新倉義太郎	27
情報源としての役割が大切	釧路地方腎友会 会長	上田弘	28
ますます必要な患者活動	北見地方腎臓病患者連絡会 会長	川窪健次	30
財政源の確立をあいことばに	オホーツク腎友会 会長	(故)小田島達夫	31

三年目を迎えて	夕張透析患者友の会	会長	須藤	亮	33
新生岩見沢腎友会	岩見沢腎友会	会長	山田	良明	34
石田病院腎臓病友の会のあゆみ	旭川地方腎友会	会長	柳本	一子	35
事務局長の夫を支えて			留目	恭子	37
第三章 座談会 十周年を省みた人工透析と腎移植の歩み					
十周年を省みた人工透析と腎移植の歩み					40
道腎協のあゆみ					55
第四章 腎臓病と闘って―医師・スタッフ・会員・患者家族の声					
透析医療の質の確保	日本透析医会	札幌北クリニック	今	忠正	59
相互の連帯を一層密にして		札幌市透析医会会長	佐藤	業連	60
一步一步着実な前進を		市立札幌病院 腎移植科	平野	哲夫	61
日進月歩の透析医療のなかで		石田医院々長	石田	初一	61
小診療所での透析も一考		市立稚内病院 泌尿器科	中西	正一郎	62
十周年おめでと		苫小牧千秋医院々長	千秋	肇	63
四台の人工腎から始めて		帯広クリニック院長	中尾	昭洋	64
血液透析を始めた頃		北見市石田医院院長	石田	卓也	65
透析施設開設十八年目を迎えて	岩見沢市立総合病院	透析センター	大平	整爾	66
目ざましい医療工学		函館泌尿器科会々長	平田	輝夫	67
テクニシヤンの身分確立へ		北海道透析技術者交流会々長	井関	竹男	68
食事は治療の柱		人工腎臓透析食栄養士研究会々長	佐藤	妙子	69
今なぜ患者会なのか		札幌北クリニック	村本	徳雄	70
夫の食事を支えてこの十年			岩崎	紀威	72

感謝の心を白菊会へ	小樽市第二病院	並木幸	73
難病連全道集会に参加して	小樽・朝里病院	斉藤一子	74
目標を持って積極的に生きよう	S・Y生	75	
私達の結婚	旭川・伊達クリニック	藤田洋子	76
ハンデがある、だからこそ	士別市市立病院	宮武郁江	77
「一ヶ月の生命」が社会復帰へ	稚内市立病院	本間健治	79
健常者との結婚	留萌市立総合病院	薄木理	80
透析雑感	函館・仲野谷泌尿器科	釣巻卓郎	81
生命長らえて	函館・仲野谷泌尿器科	小辻雅江	82
「ハワイ旅行」	函館・平田病院	岡田賢治	83
透析十三年を振り返って	苫小牧千秋医院	本村升平	85
仲間との旅行	苫小牧千秋医院	池田錠治	86
オートバイ、そして夢	帯広第一病院	塚本義彦	87
しゃも寅の水	釧路・林田クリニック	早坂要	88
頼みの親―道腎協	岩見沢市立病院	吉田謙治	89
私の透析生活―再移植の日を夢にみて	岩見沢市立病院	進藤繁幸	90
十年後を考える	札幌市立病院	中村信夫	92
第五章 資 料			
あゆみ一年表			96
年度別役員名簿			102
北海道の透析施設一覧表			112
協賛者名簿一覧(寄附)			117

第一章 各界からのメッセージ



道腎協創立十周年によせて

北海道知事 横路孝弘

腎臓病の治療のため人工透析を受けている皆さんによって組織された「北海道腎臓病患者連絡協議会」がその活動を始められてから十周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

これまで、患者の皆さんやご家族をはじめ関係者の方がたが腎臓病克服のためにご努力されてきたことに心から敬意を表します。

協議会は、結成以来、患者と家族の皆さんが、人工透析装置の不足と医療費の高額な負担の解消を図るための活動をしてこられました。また、上部団体である「全腎協」との連携のもとに、昭和五十六年以来、全国的な規模で「腎臓提協者拡大キャンペーン」を展開し、大きな成果をあげてこられました。

腎臓病は、治療が難しい病気ではありますが、医療技術の進歩が人工透析療法や腎臓移植をもたらし、患者の方がたの社会復帰を可能にできました。

道としても腎臓移植の促進を図るため、昭和五十九年に財団法人北海道腎臓バンクを設立するとともに、腎提供者の登録推進と移植希望者の検査、情報交換など移植体制の整備を図るため腎臓移植センターの設置を促進してきました。人生八十年時代を迎えたいま、だれもが健康で明るい生活を送ることができる地域医療、地域福祉をどう創り上げていくかが大きな課題であります。皆さんとともに頑張りたいと考えております。

医療をとりまく環境も今日厳しい状況にあります。会員皆さんの一層のご健勝と貴会ますますのご発展を祈念し、ごあいさつと致します。



「道腎協」十周年を迎えて

北海道議会議長 藤井 猛

北海道腎臓病患者連絡協議会が、創立十周年を記念し、「道腎協」の十年の歴史をふり返り、新たな六十年代の発展にむかって、住みやすい明るい希望の溢れた郷土となることを願って、記念誌を発刊される運びとなりましたことを、心からお喜び申し上げますとともに、この十年の皆様方の御努力に対しまして、心から敬意を表する次第です。

医療技術が進み、福祉施設が充実しつつあります今日、なお、その予防・治療法が確立されていない、いわゆる難病の苦痛に苛まれておられる本人はもとより、ご家族の方々にとりましても、どんなに辛い気持ちで、毎日の生活を送っておられるかを、想像いたしますとき、胸がつかされる思いがします。

北海道議会といたしましては、難病に対する医学の進歩と治療法の日も早い確立を願い、皆様の生活や福祉の向上のため国や道に働きかけてまいりました。

今後は、健康な私達の責務として、更に努力してまいる所存でありますので、どうか皆様方におかれましても、この十周年を契機として、会員相互の連帯を一層強められまして、明日への希望をもって「道腎協」の下、これまで以上に結束を固められ、より活発な活動を展開されますようご期待申し上げます。

皆様方の御健闘と御多幸を心からお祈りいたします。



道腎協の発展を祈る

北海道人工透析研究会々長
札幌医大名誉教授 高橋長雄

北海道で人工透析の研究が進み、はじめての臨床応用が行われた頃、透析の器械と熟練した医師の不足のために、透析の希望が達せられず、そのことに悲観して鉦路で自殺者ができました。すぐ上の姉が腎臓病でなくなった辛い思い出のため、なぜか学生の頃から腎臓病という、ひとごとと思えない私には、衝動的なニュースでした。

その頃、人工透析の当時とても高価だった材料費が、他地域に先駆けて北海道で健保で認められるように幾人の人が力を合わせて頑張り、認められるようになった時の喜びは、今でも忘れられません。そのうちに札幌に透析を専門とする優れた病院が誕生し、つぎつぎと数を増し、透析をうける医療機関を探すのに苦労はいらなくなりました。その頃の透析の苦労は、現在の腎移植をうけることの難しさと同様に思えます。腎移植の方は、当事者間の問題のほかに臓器移植そのものや死体腎を使うとすれば提供者および家族の方達という世論の動向など、もつとやゝこしくて範囲の広い難問を解決してかゝらねばなりません。たしかに道は一層険しく、困難なようにみえます。しかし今度は会員数二〇〇〇名を越え、一〇二施設をバックにし、発足後十年を経て難病患者運動の先駆的運動を牽引してきた北海道腎臓病患者連絡協議会が一緒です。暗闇の中をあてもなく、つまづきながら歩きつづけて道を開いてきた先人達に比べれば、前途には光明がともっている明るい道といえるのではないのでしょうか。腎移植センターの努力も徐々に、その苦労が酬いられる方向に動いているようにみえます。協議会結成十周年のこの機会に、会として一層の堅固な団結を計り、さらなるご発展をとげられますよう、お祈り申しあげます。

(登別厚生年金病院 院長)



道腎協十周年を記念して

北海道透析医会々長 渡井 幾 男

血液透析患者というのは、近代医学が生んだ新しい病態像を持った患者さんたちです。

今から二十年前までは存在しなかった患者さんなので、五年、十年、十五年と年が経つにつれて、新しい問題が出てくるのは当然と云えます。

見方によっては、人工腎臓でよくこゝまで治療成績が挙げられたものだと思嘆せざるを得ませんが、反対に、やっぱり人工は自然に及ばないなあと嘆息することもあります。

血液透析患者さんのもう一つの特徴は、重病を持っているにも拘らず、健常者に伍して、社会の中で働いていくことが出来るということです。しかし、その事は同時に、職場、家庭、学校の中で、色々な困難と戦っていかねばならぬという負担を背負っているということでもあるわけです。

これを一人一人、各自で克服していかねばならぬ事は根本ですが、同じ苦しみを手をつないで行けば、克服できることも沢山あることも確かです。

「道腎協」はそんな役目を果たすために生まれたものです。

道腎協協十周年の重みは、それを支えてきた人達にとっては、測り知れない重みがあることでしょう。本当にご苦勞様でした。

これからも、少しでも多くの患者さんが積極的に参加して会を支え、患者生活に明るさを増して行って下さい。

(渡井医院々長)



「道腎協十周年記念の祝辞」

財団法人北海道腎臓バンク

理事長 武井正直

北海道腎臓病患者連絡協議会の十周年記念誌発刊に当って、一言お祝いの辞を申しあげます。

道腎協は昭和五十二年十月に設立され、今回満十周年を迎えられたわけですが、その間着々と組織拡大を図られ、現在会員数二千名を越えられたことは真にご同慶の至りでございます。

しかし腎移植に係わる環境は真に厳しく、長期間透析に因る合併症の併発、脳死の扱い等難しい問題が多く、衷心よりご同情申しあげる次第でございます。

当腎臓バンクもその設立の精神に添って、腎臓病で苦しんでいられる皆様のために、死体腎提供登録者の増強をはじめ出来る限りの貢献を致したいと、日常の活動を推進しているところでございます。

人間は助け合いの中で生活しています。長寿社会になり、長生き出来るようになりましたが、生老病死という四つの苦しみからは逃れることはできません。ですが、四つの苦しみのうち、最も大きな部分を占める病気による苦しみを、私たちの英知で和らげ、減らすことはできると思います。死後に人体の一部を提供して他人を助けることは、人間社会の知恵であり、薬師如来以来の知恵だろうと思います。

道腎協の皆様が、未来に明るい希望を持って現在を生き抜かれ、幸福な社会生活をされることを切に念願致しますと共に、道腎協の益々のご発展を祈念申しあげ、十周年記念誌発刊に当りましてご挨拶を申しあげます。



医療・福祉の向上・発展を

財団法人北海道難病連

専務理事・事務局長 伊 藤 たてお

北海道腎臓病患者連絡協議会の十年の活動に、心から敬意を表します。結成に向けてのいろいろな努力、そして人々。結成後の様々な活動、そしてそれを推進した人々のことを思い出します。

透析患者となったことによる様々な苦しみや困難から、一人でも多く、一日でも早く解放される日が来るようにと願い、手探り会活動の中で、先に逝った役員、会員の一人ひとりの顔が思い出されます。

健康人の社会では、何のこともない十年が私たちにとっては、まるで自分が月へ行く話でもあるかのような、遠く、非現実的な年月でした。

しかし、今こうして、道腎協をはじめ、北海道難病連とその加盟団体の多くが、十周年、十五周年を迎えている、つまり、私たち自身が今生きているのだということに、大きな感動と、未来への希望を感じます。

たしかに、多くの仲間を見送り、人生と希望と未来を無残に打ちくだかれ、今なお、多くの患者、家族は、苦しみと孤独と不安の中に暮らしています。

そして、我国の医療体制や福祉、社会保障の行く手には、私たちには理解することのできない暗雲を見るようにも思えます。

そして、そうであるからこそ、私たちは、この十周年の歩みと、私たちの希望とを、もっと多くの仲間へ、次の世代

へと伝え、広めて行かなければならないのではないのでしょうか。

道腎協は今、道難病連の代表理事団体として、また道内各地域での主要団体として、北海道の患者運動と、医療と福祉の向上発展をめざす重要な役割をになっています。

次の十年間に、私たちは何ができるのか、どのように二十周年を迎えるのか、悔いのないよう、お互いに、励まし合いい、援け合い、学び合って、がんばりましょう。



道腎協十周年記念誌の発刊に寄せて

全国腎臓病患者連絡協議会

会長 泉 山 知 威

北海道腎臓病患者連絡協議会が、本年十月一日で十周年を迎えられたとのこと、まことにおめでとうございます。また、これを記念して「道腎協十周年を迎えて」との記念誌を発刊すること、大変意義あることと重ねてお祝い申し上げます。

私たち腎臓病患者、特に透析患者にとって十年とは、大変に大きな意味があると思います。また、腎友会にとっても同様に大きな意義があるものと考えております。

私も昭和四十七年に透析導入したとき、十年は生きよう一つの目標にしました。このような気持ちは多くの会員の方々も味わったのではないかと思います。腎友会にとっても十周年は、この十年を振り返り総括し、この先十年についての目標を掲げ、新たな目標に向かってのステップとしていく大事な年であります。

道腎協の設立はけっして早い方ではありませんでした。しかし、日本の面積の二割以上を占め、三十二市百八十町村の自治体を有する広大な北海道で、道腎協を結成することは並大抵のことではなかったことと思います。改めて皆さん

の御苦勞に対し敬意を表したいと思います。

私たち全腎協は、昭和五十四年五月の第九回広島総会において、「腎疾患対策確立のために——私たちの考え方」を提起しました。以来、私たちは「腎疾患総合対策」を戦略的課題に、国民の支持を得られ、かつ私たちの「医療と生活を守る」ために奮闘してきました。この中で道腎協の果たす役割は大きなものがありました。

この十周年を機会に、岩崎会長、中村事務局長を先頭に、次の十年に向かって頑張っていたきたいと思います。十周年まことにおめでとございました。

道腎協十周年記念によせて

北海道医療社会事業協会顧問

医療ソーシャルワーカー 清水 清



北海道腎臓病患者連絡協議会設立十周年記念の年を迎えられ、心からお祝い申し上げます。

我が国は七万人を超える慢性腎不全による透析者を抱える世界有数の透析人口となりました。

そして今や腎不全の病者にとって国民の誰もが死を待つしかなかった腎不全という難病も一救命から延命、そして生命を与えるケアを期待するものとなりました。

しかし今こそこのように腎不全病者にとって大々な福音となっている透析医療も、昭和二十九年東大において初めて血液透析が行われて以来、昭和四十二年漸く健保給付が適用されるようになり一般に普及しはじめましたがその頃最大の課題であったのは高額な透析医療費の自己負担の問題をはじめ、透析施設配置の問題、給食、寝具費の自己負担の問題、社会復帰における雇用、夜間透析の問題、移植の問題、年金制度改正、医療費値下げ問題、そして最も基本となる自己管理対応の問題など多くの解決が求められました。

いまこれらの問題にどう対応してきたかをふり返るとき最も高く評価されるものとして、昭和四十六年全腎協が結成され全国透析者の一致団結による活動の寄与が挙げられます。

特に一国の透析医療費負担制度と北海道における重度心身障害者医療費助成制度―は透析者医療費負担の問題解決となり当時女子の透析者の増加がみられ、その後広く一般国民の適用を容易にしたことであります。

また昭和四十七年腎不全対策として国が取り上げて以来関係学会透析医療に関する医師、医療技術者等による大きな成果が挙げられたことは申すまでもありません。

しかし腎不全対策の今後はさらに腎移植医療の問題の推進、透析者の高齢化に対応する医療福祉総合化の問題などの検討が求められています。

一方において透析医療をめぐる社会的状況は極めて厳しいものとなりつつあると感じます。最近透析者にとっての医療福祉制度阻止をみても、一保障から自助へ―と大きく後退し転換がみられます。

この輝かしい十周年記念を一つの契機として今後も安心して良質の透析医療と福祉の適用を低下させることがないよう、先輩透析者にみる透析医療への感謝、社会に貢献、参加、生き甲斐の意義を尊重され大同団結され、何よりも国民の同意を得られるよう運動推進の方策を考案されることを願ひ、その成果をご期待申し上げ貴会の益々のご発展をお祈りいたします。

第二章

腎友会活動の思い出

—全道ブロック会長—

道腎協の十年



札幌腎臓病患者友の会

会長 鈴木啓三

札幌腎友会は、四十九年七月に設立されまして、五十一年に細川氏が会長に、留目氏が事務局長になった時から、札幌腎友会を中心にして道腎協設立への動きが始まり、五十二年十月に道腎協が設立されました。

しかし、道腎協も、札幌腎友会も、留目氏が一人で切り盛りしていた状態でしたので、五十五年十二月に留目氏が急逝して、札幌腎友会は休会状態になってしまいました。

そして、五十七年春から再建が始まりました、まず第一に、会員数拡大と組織の強化の為に、親睦に力を入れて、ソフトボール大会、ボウリング大会、運動会、炊事遠足等を行っています。

次に全腎協関係では、全国一斉腎提供登録街頭キャンペーンを毎回道腎協と共に実施しています。又、国会請

願署名募金運動も毎年行っています。

そして、五十九年十月から、健保本人の一割負担が実施されましたが、これにさきがけて、ハガキによる厚生省や各大臣への抗議運動をしました。

また、道腎協関係では、五十九年に、腎バンクと腎移植センターの開設を記念した、全道一周キャラバンキャンペーンと六十年、六十一年の道腎協のキャンペーンにも協賛しています。また、五十七年には、初めての道議会請願も行っています。

あとは、活動資金造成販売あっせん事業として、難病連の、花火・正月飾り・ビール券の販売・五十九年から、年賀状印刷あっせんを行っています。

それから、機関誌「全腎協」「どうじん」「生きる仲間」と透析ライフの配布をしています。

以上が札幌腎友会のだいたいの活動ですが、会員数の拡大と組織の強化を第一目標に活動してきましたが、いまだ全透析患者の約半数の六百名弱の会員しかおりません。しかし、やっとこの頃、芳賀事務局長を中心に各

幹事の協力体制が出来てきたように思います。今後、道腎協との関係を緊密にして、会を発展させていこうと思えます。
(透析歴十七年七ヶ月、三十七才)

充実した組織づくりに邁進

小樽後志地方腎友会

会長 津 田 嘉 郎

小樽後志地方腎友会は、小樽市を主体に後志地区の透析者約百七十名のうち百二十名の会員をもって運営され、事務局を、うの外科クリニック内に置いて会長津田嘉郎の外若干名の役員を中心に活動を続けております。

当地区の透析施設は小樽市に市立小樽第二病院、うの外科クリニック、朝里病院、北生病院と四ヶ所が、余市町に田中医院、俱知安町に厚生病院と計六ヶ所開設されており、まだまだ充分とはいえず、今後早急に施設の充実を望むものであります。只今のところ会員の加入率は七十一%となっておりますが、これは高令者や重

症者も多く、その上関心の薄い施設などもあって加入率が悪くなっている現状です。しかし、患者運動の重要性が次第に浸透して来ているので今後成果が向上するものと期待しているものです。

当会の道腎協への加入は、昭和五十四年七月、うの外科クリニックの透析者からの要請で札幌ブロックの一部として十四名が加入したのが始まりで、その後逐次、加入者も増加し、更に昭和五十五年四月に市立小樽第二病院に透析者の会が設立されると同時に二十二名の参加あり、ようやく小樽ブロックの基礎が出来上りました。



この機会に札幌ブロックから独立してはどうかという意見もあり、昭和五十六年四月に分離独立し、名実ともに小樽後志地区の腎友会組織が出来ました。相次いで田中医院、朝里病院、厚生病院の加入があり、現状に至っております。

その間道腎協より

これからは会員の拡大、充実した組織づくりに邁進し、会報の発行や勉強会、レクリエーションの企画実行に勉め、会員相互の親睦を深める事によって親しまれる腎友会にして行きたいと希望するものであります。道腎協役員の方々はじめ各地区ブロックの諸兄には、どうぞ私ども腎友会にご助力賜りますことを念願しつつ紹介にかえさせていただきます。

(未透析者、六十二才)

要請の国会請願署名や募金などには積極的に協力して参りましたし、毎年実施されている全国統一街頭キャンペーンにも昭和五十七年以来、続けて参加し、大きな成果を上げております。透析者同志の旅行会なども企画され更に施設職員との合同で勉強会やレクリエーションに参加するなど、意識の高揚と組織の強化に努力して参りましたが、他の地区のブロックに比較して組織の弱体は遺憾ともしがたく、尚、一層の努力を惜しむものではありません。





最北の町で頑張る

稚内地方腎友会

会長 乙 竹 隆 七

最北の町、稚内で透析が行われたのは、昭和五十三年の後期だったと思います。それまでは札幌旭川あるいは留萌と、家族と離れ、又は一家で引越し、入院通院するという悲しい時でした。稚内市立病院の透析室は、七階建ての三階に位置し明るく静かな所です。

やさしく、時には厳しく自己管理を指導してくれる熟練した看護婦さん七名と、経験豊かなテクニシャン三名医師一名により快適な透析が行われております。看護婦さんは「私こそ、透析室の花よ。」と胸を張るだけあってそれぞれに個性を持ち、それなりに美しい人達ばかりです。

さて、稚内腎友会が出来たのは、昭和五十五年四月一日であります。私自身昭和五十年に札幌の佐藤医院で透析を受けており、札幌腎友会の会員としてソフトボール

やレクリエーションに参加しておりました。稚内へ帰る日があるならば、腎友会を作り、同じ患者のために、何か役に立ってやろう、と思っておりました。その後私は旭川の石田病院へ転院し、五十四年一月に稚内へ帰る事が出来ました。その時はベッド二台、入院患者一名、通院三名でした。現在はベッド数十八、患者四十名弱になっております。昭和五十五年、会員十二名で稚内腎友会を発足しました。現在会員二十六名で全腎協道腎協の行事に参加し、年に一、二度のレクリエーションも行っております。これからも日本の最北端から道腎協へ微力ながらお手伝いしたいと思っております。

(透析歴十二年、三十八才)



水無人と名付けて

留萌地方水無人腎友会

会長 池田利男

留萌市立総合病院の人工腎臓透析室が、昭和五十年四月に開設され、四月十四日治療が開始されました。

それまで留萌地方には人工透析治療がなく、患者は旭川、又は、札幌など遠方まで治療に行っていました。開設当時は旭川に転院していた患者二名と留萌で導入期の患者二名でした。それからまもなく次々と転院していた患者が帰ってくるようになりました。

腎友会の発足のきっかけは、昭和五十一年春で、当時会員は七名でした。留萌では人工腎臓透析施設は一ヶ所であり、患者同志の交流がかぎられてくる。

透析患者は十年、二十年と長く生き抜いて行くためには知識の交換や勉強会も必要、透析患者は病院の治療だけにたよらず、自分自身もしっかり勉強しなくてはならない。他施設との交流も大切である。

提案者は当時留萌支庁福祉課係長の小田桐清氏初代会長で五十四年札幌で逝去。

名称の由来は留萌市は港町。六月の留萌は透析患者にとってさわやかなおだやかな気候で過ごしやすい水無月。透析患者の身体には余分な水が残っているはならない水無人・・・などから、留萌地方水無人腎友会に決定。

腎友会発足に対して、透析の先生・スタッフの方々も快く理解賛同していただきました。

当腎友会では昭和五十二年十月の道腎協結成会議にも進んで出席しました。

当腎友会の年間定期行事として、春の花見、夏の一滴研修旅行、さくらんぼ狩り、八月海水浴、九月ソフトボール大会、十二月ボーリング大会などがあります。

あれから十一年、留萌地方には今だ人工腎臓透析施設は

当所一ヶ所だけであり、他の新設の話もない。

腎友会一同は留萌地方内機会ある事に、腎臓病予防の啓蒙運動と思い、ポスター配布などを行い、腎臓病早期発見、早期治療を呼び掛けている。

現在会員五十三名、今後増える会員のためにも、地域



道南腎協結成以前

道南腎臓病患者連絡協議会

会長 中野龍一

昭和四十七年八月頃、食欲不振と疲れ易さを感じたがこれも日頃の不養生が祟ったものと思ひ込み、平常通りの勤務を続けていた。しかし、九月に入ると病状は悪化

し、五陵郭病院で診察を受けたところ慢性腎炎と診断され、主治医は即座に入院を勧め、この病気には特效薬はなく、食事療法と安静が大切であると療養が長期にわたることを仄めかした。入院して三ヶ月目、主治医は私の今後の身の振り方について私の決断を求めた。一つは今後も食事療法と安静を続け、寿命まで長らえるか、もう

的にも会は必要であり、今の国の医療情勢を考えたなら、この先どうなるかわからない・・・会活動はこれから活発にやらなくてはならない。会員各自真剣に取り組みたい。

(透析歴六年七ヶ月、六十才)

一つは人工腎臓による治療を受けて社会復帰をするかであるという。(この頃は血液透析法のことを人工腎臓にかけるといわれていた。)

以前に人工腎臓は、健保が適用されず、月々十万円以上の治療費がかかるとマスコミで話題になっていたので人工腎臓という言葉を目にした途端、私は自分の生命が一年ともたないことを察知した。幸いにして、健保本人には保険が適用されることがわかり、私の不安はすぐに消滅したが、あの時のショックは忘れられない。

私は、自分の人生を現代医学に賭け、人工腎臓による治療を受けることにした。ところが五陵郭病院の人工腎臓には空きがなく、主治医の計らいで市立病院の泌尿器科に転院した。

市立病院の主治医は、検査結果から私の病状は誰がみても透析をかけなければならぬ程のものでなく、もう少し様子を見ようということになり、それから約二年間、食事療法を行い安静に専念した。しかし腎機能は着実に低下していき、ついに透析に入ることになった。

昭和四十九年十一月二十一日、この日が第一回目の透析日である。

当時、市立病院には「函館腎臓病友の会」という腎友会があり、年に一度のお花見や栄養士による透析料理の講習会を行った。さらに、月に一度透析室に集まっては、療養体験を話し合ったり、レクリエーションの相談をしたり、時にはたわいのない話に終始することもあった。この頃は今日のように透析療法が安定したものでなく、自己管理の失敗がそのまま死に直結したので、常に死を意識せざるをえなかった。だからこそ、先輩患者の体験談を聞き、自分の療養に役立てようと必死に努力した。腎友会の集いは、明日をいかに生きるかを真剣に考える場であった。また、協会病院にも、外来透析者を会

員とする「ボブラ会」という腎友会ができ、料理講習会やボーリング等のレクリエーションを中心に会員相互の親睦を深めたり、手作りの文集をも発行したり、活発に活動していた。

しかしこれらの腎友会は、いずれも病院単位の患者会で、会員相互の親睦を深め、互いに励まし合い、なぐさめ合うことがその主な目的で、全腎協という腎臓病患者の全国的な組織に直結するものではなかった。

昭和五十二年七月十日、医師会主催の「腎移植に関する映画と講演会」が催されたが、その準備の段階で、各病院の腎友会の役員が集まり、話し合っているうちに、腎友会の連合組織を作り、全腎協に加盟しようという結論に達し、この連合組織を具体化したものが道南腎協である。結成総会は、今から十年前の昭和五十二年九月十八日であった。
(透析歴十三年、四十七才)



先生、スタッフの協力を得て

苦小牧つくし会

会長 小林 勝 市

先づ、道腎協創立十周年を迎えたことを心よりお喜び申し上げると共に、今後いっそう私共患者のためにご発展あらんことを念願するものであります。さて、各地域における患者会の活動状況などについて寄稿することになりましたが、いざ書こうとすると生来からの筆不精でなかなか思うように文書がまとまらず、苦勞いたしました。上手に書こうと思うからより固くなり、ペンの走りが悪いので、文書の上手、下手は二のつぎにし、ありのままに書くことに徹して書きました。判読をいただき多少でも参考になるところがあれば望外の喜びであります。私共の会は「つくし会」と称し、十三年前に十四人の患者全員で発足いたしました。当時、この地方で透析を行っている医療機関は、苦小牧市立病院と千秋医院の二つしかありませんでした。

ところが現在はどうでしょう。当会に入会している患者の医療圏域（苦小牧市・千歳市・日高管内全域・胆振（東部）に透析医療施設が、苦小牧五、千歳一、浦河一、の計七ヶ所となり、その患者数も百七十七名を教え、なんと十三年前に比べると十三倍にも達し、ただおどろくばかりです。

そこで活動状態ですが、現在会員数は百七十七名で、この内病院スタッフ三名が賛助会員として入会し、協力をしてきています。加入率は六六％で全国水準を上廻っているとは申せ、加入率でも解るようはまだまだ、患者の意識が低いことを理解いたゞけると思います。

当会は、春・秋のレク、新年総会（宴会）及び街頭キャンペーンを行っていますが、いつでも出てくる顔ぶれは、大体同じであるということです。私はこのことを憂

えております。どうしても参加できない事情の方もいますが、無関心組が結構いるということです。このような会員はえてして自己管理にも無関心だと云うことです。積極的に参加することを望んでやみません。

患者の入会について医療機関及びそのスタッフの協力も非常に大事だと思えます。私が透析を受けている千秋医院は、その点、新しい患者に対し、積極的に呼びかけ

より良き透析生活を求め

て下さいますので、千秋医院における加入率は、非常に良くなっています。また、今回の記念誌発刊に当たって院長先生並びにスタッフ一同より多額の協賛を自主的にいただきましたご厚意に対し深甚なる謝意を申し上げ、大変拙稿でしたが当会の活動状況の紹介にかえさせていただきます。

(透析歴四年十ヶ月、六十三才)



室蘭地方腎友会

会長 石 井 俊 光

道腎協十周年おめでとうございます。

十年という月日絶えることなく、慢性腎不全と闘い、我々透析患者の心の支えとなり、また、透析技術、透析費用、医療向上のために数多くの人々が忍耐と努力を、

おしみなく注いでくださったのが土台となって、今日の道腎協があり、また、我々透析患者の生活があることを忘れてはならないのであると同時に、これから起きて来

るであろう難問に対し恐れることなく、透析患者同志が力を合わせ、ひとつ、ひとつ克服し、よりよき透析生活を求め、十周年を機会に、心新たに与えられた生を、精いっぱい、生きぬいて行こうではありませんか。

(透析歴十二年十ヶ月、三十二才)

一致協力、一丸となって

十勝地方腎友会

会長 新 倉 義太郎



十勝地方腎友会の

前身は、初めは協会の病院内で会員数名で人工腎臓友の会で発足したようです。その後昭和五十二年に現在の帯広クリニックに、名も帯広腎友会と改め、事務局をおき、会長、役員構成もできたようです。

五十二年、五十三年、五十四年と会長

に今は亡き梅津政一氏、副会長に重堂忠美氏、他、事ム

局、会計理事十二、三名で構成していたようです。

この頃は、透析患者も帯広、十勝管内を含めて四十五名程度で会員も二十五名位だったようです。道腎協の会費も数名分しか送ってなかったようです。昭和五十三年に機関誌腎友を年二、三回発行していたようです。会の活動として年一回の総会、役員会、学習会、夏にはピクニックなど計画を立て行動していたようです。又、昭和五十三年頃に道東三地区、釧路、北見、帯広の合同交流会が三地区協議のうえ決まり、現在道東五地区交流会に続いているのです。

そうして五十五年に現副会長の加藤健爾氏が会長になり、会の組織も会員十二、三名で構成し、五十六年、五十七年と帯広腎友会のために努力致しました。

この頃の会の活動としては、道東三地区交流会、学習会

春・秋のレクリエーション、又、この頃の会員は五〇名位だったようです。道腎協の総会、幹事会にもあまり出席していなかったようです。五十八年に第一病院の清水氏が会長に決まりましたが、この時は総会役員会など数名しか集まらず、役員、会員もばらばらで、十勝地方腎友会だけがおいておきされたような感じでした。そうして昭和五十九年から私、新倉が会長に就任し、現在、十勝地方腎友会を引きついでいるのです。私も微力ながら

情報源としての役割が大切



釧路地方腎友会

会長 上田 弘

昭和五十二年秋、全腎協の小林事務局長をむかえ札幌の円山公園にある三角小屋に、道内主要地の透析患者代表が集まり、道腎協結成の話がありました。

当時釧路では、既に腎友会が結成されていましたが、腎友会が全国的な組織になっているとは知らず、道腎協結成の話があった時には、諸手を挙げて賛成しました。

役員、会員にご協力をいただきながら、今年で会長になり、四年になります。現在、会員も八十五名になり道腎協の総会、幹事会には必ず、出席してきました。他のブロックに比べ、十勝地方腎友会も何事にも遅れをとっておりませんが、これからも会員、役員、会員が一同となつて、会の組織をしっかりと、一致協力していかなければならないと思います。(透析歴六年六ヶ月、四十七才)

透析を受けながら生き続けるためには、より多くの知識を吸収しなければなりません。道腎協はその情報源としての役割が非常に大きく、おおいに期待したものであります。

実際に、道腎協結成当時の役員会などでは、各地の役員さん方と夜を徹して話し合い、その場の情報を地元

帰って、会員の皆さんに印刷して流したものでした。

結成当時は、食事の状況が一番貴重で、食べ物の種類調理方法・量的なことの状態を、事細かに収拾したものです。

釧路地方腎友会では、昨年十周年行事を終えましたが結成当時十六名の会員が、現在では百五十名にもなり、全腎協・道腎協の活動により、快適な透析生活を送ることが出来るようになりました。

全腎協と地方腎友会のパイプ役である道腎協は、患者会活動の調整役として一番重要な役割を担わなければなりません。

役員についても大変重要ですが、結成当時からなかなか役員が固定せず、道腎協に種々支障となってきました。その要因として考えられることは、道腎協会員の半分以上もいる札幌の腎友会組織の運営そのものが、困難性を呈しているという点にあると思います。

その解消策として、今後は、札幌地区を数地区に分散して、活動させるようにしたらどうでしょうか・・・？

透析患者は通院回数も多く、遠方からの通院には多額の経費を要するという事で、通院交通費助成に関する取り組みを、釧路地方腎友会が先陣をきって、道議会関係に陳情を行いました。

現在では、各町村独自で通院交通費の助成を実施しているところもあり、ささやかではありますが、透析患者に対する経済的負担解消につながったものと思います。

透析に導入されたら数ヶ月の生命と云われていた時代から、今では健常者並に生きられる時代となりました。

私が昭和五十一年に透析導入された時には、妻よりも「自分が先に死ぬから」と、当然のように考えていたのですが、今ではかえって「妻よりも自分の方が長生きするのでは」と、思うようになっていきます。

今後は、よりよい透析生活を送れるよう、社会保障・福祉制度が後退されることのないよう、この道腎協結成十周年を契機に、道内各会員が更なる結束を固められるよう、期待したいものです。

(透析歴十一年十ヶ月、四十七才)



ますます必要な患者活動

北見地方腎臓病患者連絡会

会長 川 窪 健 次

北見地方で透析が始まったのは昭和四十七年十一月からで、道立北見病院が最初です。次に昭和五十年二月より石田医院、五十七年二月に中湧別の曾我病院、五十九年七月より千葉クリニック、五十九年秋より綱走に石田医院分院が透析をするようになりました。

患者会は昭和五十二年秋に道立北見病院と石田病院に始めて結成され、活動が始まりました。当初は、各病院ごとに活動をしていましたが、昭和五十六年度より北見ブロックとして、道立北見病院と石田医院が共に活動するようになり、昭和五十七年五月より曾我病院に、腎友会が結成されると三病院が一語になって、北見地方腎臓病患者連絡会として活動しよう、と言う事で昭和五十八年より総括されました。

しかし、昭和五十九年度より曾我病院、五十九年秋に

は綱走、斜里地区のために出来た、石田医院綱走分院の二つが北見と距離的に遠いため分かれる事となり、現在に至っています。

現在北見では三病院で患者数百十名、会員数七十三名で活動しています。腎友会としては、ここ数年、活動が下降きみで、毎年、役員のなりてが少ないという、人材不足が、大きな問題となっています。今年度も十月というのに会計と事務局長の役職のなりてがないため、今だに新役員体制になっていないという最悪の事態になっています。

昔は「金の切れめが命の切れめ」と言う現実の中で何としても腎友会に、国や行政と話し合ってもらい、命を長らえたい、と誰もが思っていたとの事。ですから必然的に、ほとんどの会員が、全てに最優先で、腎友会に協

力したそうである。過去の多くの役員の方々による、国会請願、各省庁との折衝等により、現在は、会員になってもならなくてもその全ての人が、医料費無料や各種福祉制度の恩恵を受ける事が出来る現在である。

では、これからはもう、腎友会活動は不必要なのか？否、私達が生きぬくために、そして人間らしく、生活して行くためにも、絶対になくしてはならないものである。

財政源の確立をあいことばに

オホーツク腎友会

会長 (故)小田島 達 夫

私達は最初北見の石田医院で透析を行っていましたが昭和五十九年十一月から網走方面の方々が移り網走分院で透析を開始しました。

翌年一月二十八日に患者二十五名により規約等を決め患者全員に加入してもらおう事とし、初代会長に小田島達夫氏を選出し腎友会を結成致しました。

六十年四月一日より「オホーツク腎友会」として会活

今は協力してくれる人が、少なくとも、いつの日か、必ず、全ての人が理解してくれる事を信じて、明日からも、腎友会活動を自分自身の全ての用事より優先して頑張っていきたいと念願するものである。

(透析歴四年五ヶ月、四十一才)

動をはじめました。最初は、とまどってしまいいかなかなと思いだうりいきませんでした。色々行っているうちに要領がわかりスムーズに行くようになり、親睦会行事やその他の行事を行って来ました。

また、財政源のひとつとして、赤い羽根共同募金会に必要書類を提出し、配分金をもらうことができました。

昭和六十一年三月三十日に第一回総会を行い二代目会



長に原田幸一氏が選ばれ役員体制も五人から十人に拡大しました。また、総会の最後に透析歴五年経過ごと（五、十年）の表彰及び記念品の贈呈式を行いました。（毎年行方。）

二年目は、腎提供キャンペーン、国会請願署名運動、花見忘年会、道東五地区

交流会への参加、会報「流水」の発行等の活動を行い、昭和六十二年三月二十九日第二回総会を開催する。

三年目は、小田島達夫氏が会長に再選される。今年度は、今まで以上に充実した活動をとの合言葉に、なにか課題を目標に活動を行う。課題として「財政源の確立」とし、花火販売に取り組み、会独自で仕入れて販売することをを行い、成功することが出来、貴重な財源の一つとなりました。

また、会員数も三十五名と増え、各行事も拡大し、幅

広く活動し、ひとつでも多く、実現出来る会活動をめざしていきたくと思っています。

※小田島氏は、原稿を書かれた後、昭和六十二年九月二十七日逝去され、氏の貴重な遺稿となりました。



三年目を迎えて

夕張透析患者友の会

会長 須藤 亮

私達透析患者は、長い腎臓病の治療生活を経て、今日の透析生活に入っているものであり、医療にはお金が付きもので、金の切れ目が命の切れ目、かと私自身考えさせられたこともありました。ましてや人工透析になっただら、どうしよう、精神的な苦痛よりもお金の事が心配でした。「田畑を売り、このお金のある間透析をして下さい」という誰も実話として聞かされた時代でした。

透析に要する経費は、先人の方々のご苦勞によって全国在庫負担を確保し、今日あることに深甚なる敬意を表します。個人の力では何事も出来ないもので、個人の力を結集した地域の組織をつくり具体的運動は上部組織の指示によって活動することとし、導腎協と全腎協に加入して会費を納めることを主目的とした友の会の発足をしたのであります。上部組織の加入によって具体的活動が明

確となりましたので、昭和五十九年四月に発足させ三年目となりました。

が、この間国の福祉政策は年々減退していく実態に、一層、組織の大切さを痛感し、地域の活動こそが原動力であり、積極的な地域活動が少なくとも現状を維持することであることを確認したのであります。

現在患者数は、二十三名で、会員は二十二名と小規模な組織ではありますが、年間の活動を次のように実施して居りますので、御指導御指摘を戴きたいのであります。

- 一、物資の販売による資金の確保
- 二、上部組織の発行する機関誌及びパンフレットの配布

三、会員相互の研さんのための会合

勉強会、体力づくりのためのりんご狩り、温泉の

旅など

四、腎臓移植者登録キャンペーンの実施

以上が主なものですが、会員二十二名中十名程度が、常時入院している状況から、限られた人員での活動です

から、会員全員が健康を回復して、揃って行動できる日を願っているところであります。

(透析歴十一年、五十九才)



新生岩見沢腎友会

岩見沢腎友会

会長 山田良明

南空知の行政・産業・教育の中心をなす岩見沢市。大動脈である国道十二号線沿いに真新しく聳える市立総合病院は、市民はもとより、地域医療センター病院としての重要な機能を担っております。昭和四十五年四月道内

公立病院ではいち早く人工腎臓透析を導入され、現在はベッド数二十三床で、七十余名の治療を行っております。

岩見沢腎友会は、昭和五十九年十月市立病院透析患者により、会員の親睦と透析知識の吸収を図るため会員四十五名により設立いたしました。年度途中の設立でもあり、この年は上部組織である道腎協・全腎協への加入は

見合わせ、加入を前提とした検討期間とし、翌年度総会において加入決定をいたしました。

現在透析患者の約四〇%が入院中で、長期化しておりますし、年齢別に見ても満六十才以上の患者は三二%を占め、高齢化が進んでいます。又、夜間透析を実施していただき、完全に社会復帰している患者も約三〇%強であり、受け入れ先が確保できれば働きたい患者もあり、職場確保が重要な課題とっております。

会員の入会率は六六%と低く会の運営においても低調であると云えますし、役員も長期化と共に役員会開催場

所の確保及び、会務執行のための事務所が持てない事などにより、会務の分担が出来ないことが活動の低下の原因と考えられます。今後の課題としては、市内及び近隣の患者会とのブロック化を図ることにより会員を増やし

、活動の活発化を図る必要があると考えています。道腎協並びに各ブロックの御指導をお願い申し上げる次第でございます。（透析歴七年十一月、四十九才）

石田病院腎臓病友の会のあゆみ



旭川地方腎友会

会長 柳 本 一

うです。

石田病院で人工透析を開始したのは、昭和四十三年五月より数名の患者と先生一人、テクニシャン数名で人工透析を始めたそうです。当時は医療設備もとほしく、透析を受けるにも生と死の背中合わせの状態の中で受けていたそうです。

月日がたち医療も進み、患者さん先生なども増員し、入院患者さんで坪井さんが中心となって患者会を作っていました。会員が少なく、当時は重病人が多く、会活動などできなかつたそうです。患者同士坪井さん中心に話し合いなどする程度おたがい生きる事に専念していたそ

その後三年後坪井さんが亡くなり（昭和四十九年三月です）以後副会長であった川添氏を会の中心とする会が結成され、会員数も百三十余名で役員数名で会活動を開始しました。月に一回の機関誌を発行し、機関誌名は旭川市シンボルとされている「ななかまど」とし、発行し、会の活動を広げていったそうです。その後、昭和五十一年十月に川添氏の状態が悪くなり月一回の機関誌も出せなくなり、自然消滅しました。

以後数年会の結成がなく、昭和五十三年十二月十日、

石田病院院長の御理解のもとに松山氏を会長とし役員八名、会員数百七十余名で石田病院腎臓病友の会が誕生致しました。会活動の始まりは最初は基礎作りから始まり基礎作りが完成し、活動に入りました。役員会の話で

月一回の機関誌を発行しようという事になり、発行する為の原稿を会員、先生方に依頼し機関誌を通じて会員との会話をし、会活動を広げていきました。数ヶ月機関誌を発行していましたが、機関紙に載せる原稿が思う様に集まらず、機関紙の発行も月遅れになり、発行を打ち切りました。

その後の会活動は定期に役員会を開き、先生と患者者の話し合いなど定期に行い、患者の皆さんがいかに良い透析を受けられるか、又透析の食事の講習を行うなど、会活動を広げていきました。

以後役員改選もなく、昭和六十一年に入り、当年六月に会に思いもしてなかった出来事がおきました。会長である松山氏が健康状態を悪くし、入院しましたとの事でした。入院後、病状はあまりはつきりせず、数週間後亡くなられました。「昭和六十一年六月十一日死去」会の先頭になって活動していた人だけにほんとうにおしい人を亡くしました。

数日後緊急役員会を開き、役員改選が行われ、会長に

私柳本がなり役員十名、会員数二百八十名で結成し、なき前会長の功績を汚さぬ様に会活動に努力しております引継ぎ後の最初の会活動は先生と患者会の対話会を開き今後どの様にしてもらいたいか、患者から先生に休しての希望、先生から患者に対しての希望など話し合い話し合いを行いました。

会活動として六十一年度は終わり、あけて六十二年五月には旭川ブロックとして基礎作りの為、増田クリニック、日赤病院などと役員会を開き、話し合いの結果、旭川ブロックを結成し、くる年六十三年度より活動を開始する予定でがんばっています。

(透析歴十一年、四十九才)



事務局長の夫を支えて ― 特別寄稿 ―

留 目 恭 子

道腎協結成十周年に当たり、会員の皆様にご心よりお祝い申し上げます。

願いますと、昭和五十年、主人が腎不全で北クリニックスの今先生に助けていただいた時からのおつき合いです。一時は落ち込んでいた主人も、病院の人達から種々な事を教わり、自分を取り戻したようです。札幌腎友会の人達との勉強会、レクリエーションと、精力的に動き回る主人の後からついて歩き、私も随分教えられました。五十二年十月一日、道内に点在していた友の会がひとつになろうと、函館、苫小牧、室蘭、旭川、北見、帯広、釧路、札幌（後に小樽）と、八プロックの集まりで、ナカマドの実が赤く熟し、紅葉も盛りの円山近く、ホテルサンハイツで、全腎協の小林事務局長をお迎えして、

設立準備会を開いたので。本当に懐しい方々のお顔が目に見えます。患者会とは思えぬ程の張り切り様に私の方もファイトが湧いたものです。街頭に立ち、声を張り上げ、街行く人々に呼びかけ、署名に募金にと、協力をいただき、講演会や地方へのキャンペーン等、夢中だったというのが当たっているのかもしれない。とは云え広い北海道、しかも透析に身体を縛られる会活動は、思うように運ばず、会合の回数も少なく意見の食い違いや理解をもらうのに時間がかかったりと、思わぬ事での困難に苦勞したようでした。

あれから十年になるのか・・・と、しみじみ感じます。道腎協さんとは、五十六年以来すっかり疎遠になってしまいましたが、会活動のお手伝いをさせていただいた

おかげで、新しい職場にもすぐ馴れて、私共三人は、元気に暮らしております。

初代会長の細川さんも今は亡く、主人と腎友会の話などしているかもしれませんね。会員数も十年前から見るとずいぶん増えているようですが、福祉切り捨て、医療補助見直し等、情勢が厳しく弱者に冷たい昨今、今一度患者会としての結束を強くして立ち向わなければならぬ時と思われまます。

道腎協の今後増々の団結を祈りながら、結成十周年のお祝いを申し上げます。

(故留目英生氏夫人)



第三章

座談会―十周年を省みた

人工透析と腎移植の歩み



十周年を省みた 人工透析と腎移植の歩み

昭和六十二年十月十日（土）札幌第一ホテル
ふようの間にて、岩崎会長の司会のもと、十年
間の歴史を振り返り「十周年を省みた人工透析
と腎移植の歩み」等について座談会を開催致し
ました。

司会 本日は、道腎協十周年を省みてというテーマに、人工透析のベテランでいらっしゃいます河口先生、それから、市立札幌病院腎移植センターの平野先生をお招きして、この座談会を開催する事になりました。これから増えていく患者、それから現実には長い闘病生活をしている患者会においても、この患者会の十周年の歩みを総括し、陰につけ陽につけ、一つの自分を振り返ってみるというテーマにしたいと思います。それで冒頭にですね、河口先生に、人工透析の今昔物語とでも申しませうかそのお話を願いたいと思います。

十年前とは格段の差

河口 今日はお招きにあずかりありがとうございます。私は、透析を始めてどちらかというと若い方なので、ペテランとはいかないので、諸先輩が沢山いるので、十年の歩みというテーマは、かなり負担なテーマなのです。私はいわゆる昔の膜はりという透析はやった事はないわけです。ですから、第二世代か第三世代という、新しい方になるわけです。それで十年省みて、どんな風が変わってきたかという事ですけれども、本質的に、随分進歩はありましたけれども、変わりない様な感じもします。手段自体が、いろいろな新しい膜とかが出てきて、将来もいろいろな希望が持てるものが出てくると思います。ただ患者さんの状態というのは十年前と今では格段の差がありますね。

司会 そうですね。昔は歩くのもやっとだったのが、今では走る事も出来ますね。

河口 それからいろいろな合併症なども、極力抑えられるものは、抑えるという手段が、二・三出てきましたね。ビタミンDとか、新しい膜を使って、透析中、あまりトラブルがなくなるとかですね。昔は酢酸透析から、

出席者

(敬称略)

上田 弘(鈿路)	道腎協副会長 透析歴十一年十ヶ月	道東勤医協鈿路協力病院
廣岡達夫(苦小牧)	道腎協副会長 透析歴十四年三月	道腎協副会長
佐藤 昇(室蘭)	道腎協運営委員 透析歴六年	道腎協副会長
鈴木啓三(札幌)	道腎協副会長 透析歴十七年七月	道腎協副会長
堀井和彦(札幌)	道腎協事務局長代行 透析歴九年	道腎協副会長
岩崎 薫(札幌)	道腎協副会長 透析歴九年五月	道腎協副会長
飯村 歩(札幌)	事務局員 透析歴十年七月	事務局員
河口 道夫	道腎協副会長 透析歴十一年七月	道腎協副会長
平野 哲夫	道腎協副会長 透析歴十一年七月	道腎協副会長

今は重曹透析になっています。それから膜の開発、新しいダイアライザーですね。これはコイルからフロフアイパーにはほとんど変わってしまいました。シャントは、

外シャントから内シャントに変わってしまった。

司会 外シャントでは大変な苦勞をされましたからね。

河口 昔と今と比べてみてですね、どこがどう違うかというところ、やはり水管理が楽になりましたね。ダイアライザーの開発で、水引きが出来るという事ですね。昔の透析で三キログラム引くというのは大変でした。二番目は、カリウムの高い人はいますけれども、これでもって亡くなる人は、昔は非常に多かったですね。ですけれども高いけれども何とか大丈夫だという感じになりました。

今から骨の問題を



河口先生

司会 そうですね。昔はたくさんのお患者さんが亡くなりましたね。

河口 それからお腹に水が溜ったり、心臓に水が溜ったり、こういう事が

も、除水を充分コントロールできるという事で、まずなくなりましたね。それから食事に関しては、昔、塩分は三グラム〜五グラムというきつい食事、水分も薬を飲む

だけという事で百CCあたれば良いのではないかと感じでしたが、僕はこれからがまだ問題だと思っですね。それは、カルシウムとリンの問題、骨の問題ですね。これはどうしても患者さんが一生懸命努力してくれないと、医療の限界みたいなものが今の透析ではあります。活性ビタミンDなどが出ていますけれども、それだけでは、解決がつかないし、それから副甲状腺機能亢進症で、副甲状腺が大きくなったから取れば良いという事ではなくて、仕方がないからそれを取るといってもそれを取ってしまうと、リンの血中濃度が高くなっても良いかというところ、これは違うんですね。ですから、取った人はなおかつ他の人よりも食事には気を付けてもらわねばなりません。それから骨の問題に関して、何か起きてからでは遅いという事ですね。もう何年もかかって出てきていますから、リンのからみでは、食事を今日一食きちんとやれば治るといえるものではないですね。そこらへんを患者さんに理解してもらいたいですね。

司会 ああ、そうですか。どうも先生からいろいろと今日的な移り変わりのお話を戴きましてありがとうございます。次に平野先生から腎移植の現状はどの様な形でもって移植されているのかという一つの概括的なお話をお願い致します。

患者運動は私の励まし

平野 私の事から申し上げたいと思うのですが私は昭和四十四年に北大を卒業いたしました、その当時コイル型の透析が始まりまして、外シャントで、手術場でやる様な透析という事で、今、当時の話を聞きますと、数年前より移植は教室としてやっていましたし、透析も数年前より手がけていたという事で、移植を前提とした透析という事がやられていたみたいなのですが、当時やられた方が北海道で移植で十九年、それから透析で約二十年最長になる方なのですが、その方というのは、当時の人達の中から言えば百分の一かそれ以下の数字で残られた方だろうと思います。そんな風な事を見ながら透析というのは、かなり大変だなあと、移植も成績が良くなって、本格的に私自身が移植に手を染めだしたのは、



平野先生

四十九年位です。それから、北大で三十例近く、五十九年に市立札幌病院に移りまして、昨年の四月からようやく腎移植という形で独立して、市

立病院に来てから、十四例ですが、移植をやってきてようやく成績が落ち着いてきました。それでも、不幸にして亡くなられた患者さんもかなりいるわけでして、そういう方たちの最終的な状態がまぶたから離れないというか、むしろ自分の一生の課題として生きたいと思えます。そして私自身が今、こういう医療に携わっている中でですね、道腎協などの患者会の運動というのは、自分のしりをたたかれるという意味で大きな励ましになっているという事です。この十年の歩みは我々と二人三脚で来たという事です。移植に関しては、基本的には、生体腎に関しては、私は物事は整理されたのではないかと思えます。それで組織適合性の検査などで、HLAの適合性というものは、基本的に大事だと思っていますけれども、もう一ついわゆる抗体ですね。やはり輸血をすればする程輸血によってできた抗体が体の中で強烈に働くというようなことが起こり、移植を延期するとかですね、移植が不可能になる方がかなり率として高くなるというのは、まちがいないです。今の技術レベルから言えば、ちょっと後でお話する死体腎から言えば、一定程度の輸血はやっておいの方が、成績は統計的には良いという事もあるので、今の段階では、生体腎としては、整理されたであろうと思われる。もう一つは、おそらくABO不適合

に關しても、まだ日本ではやられていないんですけれども、外国では、脾臓を摘出して、それに血漿交換を併用しながら、AB型の腎臓をO型の人に入れるとかいう様な事をやっているんですね。ですからそういう様な事も、将来的には不可能でないだろう、という事は考えています。

腎バンクの登録をふやす

司会 日本ではまだやっていないんですか。

平野 まだやられておりません。十何例くらいが外国では出ていると思います。それが適合性の問題ですね。それから薬の事で言えば、シクロスポリンが出てきて、去年の二月から保険を通りました。やはり血中濃度というか、投与しすぎると腎毒性があるというような事で、その調節が若干あるという事です。ただ、ブレドニンの使用量がだいたい以前に比べて半分以下になったという事です。それから、シクロスポリンの使う事によってかなり成績も良くなったし、死体腎の成績が従来の子体腎の成績を上回る様になってきたし、生体腎は九割何分という数字ではないかという様になってきています。三つめの進歩の問題として、拒絶反応に対する診断とか

対策、術後の管理に対して我々にも苦い経験があるんですが、生体腎であれば、トラブルがなければ移植後一ヶ月位で退院が出来るくらいまでもってきています。

司会 そうですか、一ヶ月位で退院出来るのですか。

平野 問題はやはり、我国でだいたい一年間に五〇〇例くらいやられていて、八割以上が生体腎、二割が死体腎ですね。これも関西と東海地区がほとんどという状況なんです。それで移植数を伸ばすには、死体腎しかないと思うんですけれども、最近の動きとして、若干生体腎に対する考え方をまた見直し、成績がある程度出るという事で、従来生体腎をあきらめていた人が、また見直しが始まっていると思うんです。死体腎に関しては、やはり脳死の問題を解決しない限り進歩はないだろうと考えていますね。一番大事なのは腎バンクの登録を増やす事です。その腎バンクの登録は北海道で約九千ですが、日本全国で十四万くらいです。それから医療の進歩から言えば、おそらく特異的に拒絶反応を抑える薬、今、モノクローナル抗体とかいう非常に特異的な抗血清だとかそういう様なものが治験段階というか、実際に応用の一歩にはいつてきていますし、益々新しい免疫抑制剤などが開発される事がまちがいないわけで、むしろ問題としては、そういう風な事を利用できる移植件数が増えるか

どうかという事です。それであともう一つ今、我々が移植をやった後の長期的なフォローの中で、問題になってくる事として、元々の腎炎の再発の問題とか、慢性の拒絶反応、透析の患者さんもそうですけれども、悪性腫瘍の発生です。やはり劇的にデーターは良くなるんですけども、回復が遅れる、やはり動脈硬化の問題とか骨の問題というのは、透析が長くなればなる程、出てくる問題だと思えます。その様な事が今の課題なのかなあと思えます。

輸血とヘモグロビンの沈着

司会 そうですか。移植も早いうちにした方が良いのですね。

河口 言い忘れましたが、アルミに関しては、これはもう沈着してしまおうと、どうにもならないですね。

平野 そうですね。

河口 完全にとりこまれてしまおうから駄目ですね。それから輸血は本州に比べると北海道は随分少ないですね。どうしてもヘモグロビンの沈着というのがあります、やれば壊されるわけですからね。常に壊されて、それをどこかで蓄えていかねばならない。まあデスフェラール

(DFO)という様な薬で取るという事も出来ませけれども、やらないで済めば、やらない方が良いです。その様な薬を使って肝臓が悪くなったとか、目の障害が起きたとかいう様な事もありますからね。ちょっと抜けている所を補足しました。

透析を始めて十七年

司会 わかりました。どうもありがとうございました。ただ今、平野先生から、腎移植の将来の課題も含めまして、いろいろお話し願いました。次に患者にうつりまして、今、札幌腎友会の会長として、一番透析歴も長い鈴木啓三さんに透析歴とか 初期の頃の透析とかについてこれからの人々のために何か参考になる事がありましたらそれもひとつ含めてお話し下さい。



鈴木さん

鈴木 これからの人の参考にはちょっと・・・僕が入ったのは十七年前ですから、その頃の事は参考にはならないと思いますが最初は週二回の八時間透析でしたが、それでまあ最初はあたりまえだと思

通しです。

司会 今では考えられない事ですね。

上田 それでもお陰様で市立病院で三ヶ月くらいたってから、機械を新しいのしてくれまして、それからまあまあ順調に、当時はそれこそ半年か一年かという話も耳にしていたわけですから、家には帰れないんだなあといい風に一度は悟りました。今考えてみますと、本当に透析の技術的なものが発達していなかった時代で、スタッフの人もそれ相当に勉強をして、透析患者の事を思っただけで何とか長生きさせたいという事でやってくれました。司会 そうですね、医師やスタッフの人達には本当に苦勞をかけていますからね。

上田 やはりそういう苦しみを乗り越えてきたから、こういう患者会運動でも、やっていきますけれども、やはり今はすんなり透析に入って、すんなり退院して行くという事で、こういう患者会活動にも目が向けられない。医療費のかかっていった時代、先程の鈴木さんではないけれども、自分の家で医療費を払っていたというのが、今は払わないで、その恩恵にどっぷりつかりすぎて、その先輩諸氏の苦勞を知らないでいるのが非常に残念だと思っ

苦小牧だけ全腎協に加入



します。

司会 そうですか。どうもありがとうございます。次に苦小牧の事務局長であり、この方も非常に透析歴の長い方である廣岡さんからお願

廣岡 僕は四十八年の九月から始めて、その時、ちょうど三十八歳だったです。その前の年の四月に慢性腎炎という診断は下っていたんですね。市立病院で七月の末から一ヶ月くらい内科のところにいまして、だけどベッドで寝ていましたら自覚症状がまったくないんですね。ちょうど八月の末になって夜中にうなり出して、すぐに泌尿器科に移されました、それで透析に入りますという事でその前に内科で尿毒症だと言われましたから、いざれ死ぬのかなあと思っていたんですけども、透析治療があるよという事で、入院していた患者さんに「どのくらい生きられる」と聞きますと、「二年と思えや」という事だったんですね。その時に透析を受けていた人が、

苦小牧市立病院では男二人女二人のちょうど四人だったんです。それで九月の初めに、腹膜灌流を始めたんです。腹膜灌流を始めてすぐに、外シャントを作りまして、一週間腹膜灌流をやりました。そして九月七日に透析に入りました。その時はもうBUNは二〇〇くらいあったでしょうが、まあ腹膜灌流でだいぶ下がっていきまして、九十くらいで、やはり初めは血圧が下がってしまっ、吐いてしまい、これはひどい事が始まったんだと思っていました。家に終わったよと電話をかけているうちに失神してたおれたりしていましたけど二ヶ月間入院して、一月には勤務に戻りました。その時の主治医の先生が、今の光星泌尿器科の上戸先生だったので、二年と聞いたのでそのくらいですかと聞いたんですよ。そうしたら「まあ、別の病気が出なければ、透析だけでは死なないよ」という事を言われたんですね。それでその時やっていたのが僕を入れて五人で今は三人残っていますね。苦小牧では一番長い人が十六年、それから十五年、僕は十四年です。ですけれど、札幌の方から移ってきた人とかはいまさら、僕より長い十五年前後の人が七、八人おられますか。普通にやっていたら、それだけでは死ぬ事はなくなったなあと感じています。一応十五年とか十六年の人は、一部分でもお金を払ったり、それから

お金を払えないからという事で医療補助ですか、生活補助などに切り替えてやった人もいます。僕らは幸か不幸か、上戸先生が全腎協というのがあるから入りやすいという事でね、たまたま僕が出張で東京に行く事になりました、その年に苦小牧だけ全腎協に加入したんですね。それで苦小牧だけというのはまずいので、北海道全部で入ってくれと言われましたが、どこがどうなっているのかわかりませんし、一応僕らの所だけでも入らせてくれと言ったら。まあ例外として認めますという事で苦小牧だけ初め十四人です。そんなもんですから、古い事だけは古いのですが、ただ最近の患者さんは医療費の自己負担がないので患者会の加入率はぐっと下がってしまっ、なかなか運動がしにくくなっている事は事実ですね。

司会 どうもありがとうございます。廣岡さんは獣医さんなんです。主に馬の方が主体ですか。

廣岡 いいえ、犬猫です。むかし勤めていた所は馬でした。

徹底した運動療法

司会 ああそうですか。次にもっとも元気で、この人



が透析患者かと言われるくらい元気な室蘭の事務局長の佐藤昇さんをご紹介します。

佐藤 岩崎会長からいつも元気だと言われるんですが、最近足が痛んで、ちょっと病院にかかっているんですが・・・

司会 患者らしくなってきましたね。

佐藤 五十六年の十二月に導入しました。入院すると同時に階段を、朝、昼、晩と全病棟歩きまして、透析の日も、透析の次の日もかかさずやりました。考えてみるとその他に機能訓練回復室で自転車こいだり、腕を回したり、ずっと続けていました。それでちょうどシャント作って、一ヶ月半で非常に元気で退院しました。ちょうど入院して次の日に患者会の会報が控室にあったので読んで入らせていただきましたと言ったら、今は入れるわけにはいかない、その理由はと聞いたら、亡くなったら香典を払わなくてはいけないから、今すぐには入れるわけにはいかないというのが室蘭の患者会の実態でした。というの、調べてみたら死ぬ人が非常に多かったんですね。それで自分が入院して過去何年間の会員数と、死亡

数とデータをとって、最高六年生きれるなあと思ったんです。それで家族に遺言を言って、皆に叱られました。いわゆるどの位まで食べられるのか、そして運動する事によってどの程度まで良くなるのか、ずっとやってみました。野球もやりましたし、走る事もやりましたし、毎日何キロかも歩きました。とにかく徹底してやりました。河口 模範患者さんですね。

佐藤 岩崎さんの言う様に、今、来る時も走ってきました。それから移植者と患者と健康な人が、どの程度の体力の差があるのか、心拍数ですが、腕につけて走ってみました。そうしたら、移植者より走りましたね。だから運動と自己管理というのは、駄目な人はやはり先生に相談した方がいいんです。どうしてやっても駄目な人は合併症だとか何とか、やはり自己管理と運動というのは昔も今も変わらないし、今後も変わらないと思います。

ただし移植はどんどん進んでいます。室蘭でも一時、US腎で成功しはじめたらすごかったですね。全道の会員でも室蘭さん室蘭さん、とにかく状況を知らせてくれと言いました。組織と継続で、いろいろな人達の協力で先生達もいろいろな合併症から病院の管理からいろんな形で患者さんの面倒を見てもらってですね、市民の税金から何から含めてですけれども、ほとんど出さないうで、面倒

見てもらってこうやって長生きできるというのは、やはり感謝しなければいけない。それと最低限患者であるならば、その家族であるならば、自分達の福祉の向上、原因の究明だとか、根本治療に対して請願署名云々やる時には、ぜひ必ず参加して戴きたい。それと移植の為の腎バンクのキャンペーンを実施する時、一年に一回です。ぜひこれに参加して、手を貸して戴きたい。世の中を自分だけ困ったとワクの中にはまる事なく、世の中の大きい大局の考えになってほしいと思います。

新しい患者さんは勉強不足



堀井さん

司会 どうもありがとうございます。次にごさいました。次に道腎協の事務局長代行をやっています、堀井さん一言お願いします。

堀井 私は昭和五十三年の十二月からですから、まもなく九年目です。私は恵まれていまして、意外と順調にきたんです。最初の透析導入期もいっさい入院しませんで、外来で透析を始めました。他の人の様に胸に水が溜って苦労したとか、そ

う思いはないですね。私の時も透析となるともう「ああ、人生終わりだ」というか、そういう感じがしましたけれども当時、本なんか見ますと、だいたい五年生存しか出来ないというんです。かなり真剣に透析に入る時というのは考えたものでしたけれども、今の導入期の患者さんというのは、入って一年くらいしてから、ガクッとくるみたいですね。なぜかと言いますと、今は元気なりに導入しますね。そしてお小水も出ています。水分制限もほとんどないです。しかもまあ最初ですから透析の時間も短いんですね。三時間とか三時間半とか、これで透析ってこんなに楽なのかという感じで来るみたいですね。それで一年位たってお小水が出なくなると、食事制限がきつくなると、透析ってこういう大変なと思う人がかなりいますね。それと私達の時は、自分で透析とは何かと、本を読んで勉強させられました。しかし、最近の患者さんは自分で本を読まないのか、透析の事について知らない人が多いみたいですね。それから患者会の加入率ですが、地方の人は通院費がかさむので、患者会に通院費の助成運動などを行ってもらう為に加入率が高い。しかし、札幌は無料バスで通院費がいらぬ、恵まれているので、患者会の加入率が低いですね。だいたい五十パーセントくらいですね。いつまでも医料費が無料で続

くとは思えません。

高校生の時透析



飯村さん

ね。ここにみえていられます河口先生の所で透析を受けております。透析歴も長いようですので飯村さんから一言どうぞ。

飯村 今日来て戴いています河口先生の所で透析しています。私は五十二年の五月に導入しまして、その時十六歳でした。それで今は十年を過ぎたんですけれども、最初は河口先生のすすめもありまして、普通高校に通ってました。それで一応卒業する事が出来たんですけれども、その通っている間、食事が取れなくて、食欲が全然なくてそれでヘマトも低くてという様な悪循環が長く続いて、それは高校卒業するまで約三年間くらい続きました。そして高校卒業してからは、まあまあにヘマトも上

司会 はい、どうもあ

りがとうございました。次に今年の四月からですね、道腎協の事務局員として、一生懸命働いてもらっている飯村さんです

がってきたんですけれども、そして現在の状態に至っている状態なんです。

透析と聞いただけで



岩崎さん

司会 非常に元気ですね。しんがりに、私が少し申し上げますと、一番最初には河口先生にみてもらいましてそれは五十年の春です。「これはもう、すぐ透析しなければ駄目だよ」と言われたんです。それで私は透析という言葉を聞いただけで、もう死ぬなど自分で思いました。がっくりきてそれから六ヶ月病院に行かなかったんです。それで家の近くに渡井先生がいましたので「俺のところ来い」という事で、その日のうちにシャントを手術して、ちょうど十年になります。我人生を振り返ってみて、皆さんも同じく言われた様に、私もせいぜいもって二年と思ったのがね、今日十年たった。十年たって生きた人の見返りとしてね、私の様に悩んでいる人は、たくさんいるだろうという事で、こういう仕事に携わりました。次にですね先程からいろいろ患者の

事を話してくれたんですが、腎不全の医療の考え方という事で、たとえば、患者が自分のBUNがどうだとか、カルシウムがどうだとかいうものの勉強をしている人は良いのですが、先程から患者が皆言ってます様に、非常に不勉強な人が多い。そういう患者に対する先生の取り組み方というのは、実際は難しい事ですが、どういう事でしょうか。

検査データを讀み取る

河川 うーん。あの僕なりにやっているつもりなんですけどね。これも病院病院によって違うんですね。僕の病院では検査したものはですね全部貼り出しています。

司会 ああ、そうですね。

河川 患者さんの方に責任をおしつけるわけではないけれども、貴方の成績はこうなりましたよ、という事ですね。こっちでわかるものは、いろいろ聞き出します。たとえばカリウムが高くなったという、いったい何を食ったのか聞きます。患者は、「何も悪いもの食べません」それでいろいろ聞いてみたら「ああそういうと、キャベツのロール巻き二個食べた」とか、まあそれだけで上るわけじゃないんですよ、それでそういう所で患者さ

んが覚えてくれるとそれで良いわけですよ。そういう意味で貼り出しているんですね。

司会 あの、先生。私、一つだけ疑問があるんですけどね、カリウムの例を取っても、先天的高い人は高いし絶対的何を食べても低い人は低いんです。私などはカリウムは高い方なんです。

河川 それはですね。結局まあ僕はもともと、腎臓といたしても、薬理の方の出身なんです。それで利尿剤という薬にひとつ非常に興味を持ちまして、そういう所から腎臓に興味を覚えたんです。腎臓というのは、昔は排泄器官ですね。いろいろな物を出すという事で、それだ、たとえばビタミンDにしても、エリスロポエチンにしてもそうですね、それからいろいろな代謝器官なんです。それで体のレギュレーターというか調節器なんです。それでカリウムは細胞の中にごそつとあるわけですよ。何か要因が変わるとそこらごそつと出てくる事はあり得るわけですよ。ですから、そこらへの研究というのは、どういう様な要因でもってそういう事が起きるかという事を膜を直してやるとまだまだ、カリウムというのは下げられるし、カリウムはたくさん食べても少ない人がいますね、当然の話だと思います。ですからね、

高けりゃ良いわけがない。外が高くて細胞の中が低くなりますと、心臓に直接ひびいてきますからね。ですから心臓が止まるといふ事もあるわけですね。ですから、できるだけ低いレベルにおさえてといふ事ですね。

大きな課題、社会復帰

司会 それでは次にまたちょっと、患者会に入りましてですね、次に透析後の人生、透析をやって自分の人生が変わったという現象など、どうですか上田さん。

上田 営林署という所に現在も勤めているんですけども、そのある程度の資格を取って終わらせてきて、これから第一線だといふ事で、第一線の現場に出ています。透析に入ってからはいもう、出世街道は駄目だぞといふ様な引導を渡された様な、一時はいわゆる降格書といふのか、降格されても異議ございませんといふのを一筆書きました。まあお陰様で釧路で五十一年に腎友会を作って、五十二年に道腎協を作るからどうだろうといふ事で、お呼びがかかって、それこそ円山の三角のヒュッテかどこかで道内の人が集まってやって、これはやっぱり、これからの患者さん方をすくっていかなきゃならないから、やはり患者会作らなきゃならないなあといふ

事でやって、まあ僕はお陰様で、職場的には恵まれています。それから、僕らでいえば、早坂さんという国鉄に勤めている人がいた。水沢さんという社長さんもいた。その三人がなんとか患者会をもちたてていこうと、僕ら三人がなんとかやろうといふ事でやったんです。まあ今はもう人生観が暗くなったというよりも、そういう意味あいでは、職場に対しては、出世とか何かといふのは二の次で人生生きるのはどんな生き方をしても、やはりいろいろあるんでしょうから、こういう皆さんのためになる事であればやりたいなあという気持ちがありますね。

司会 そうですね。あとそれからこれは皆さんにちょっと聞きたいんですが、社会復帰といふのを、先生達からも非常に言われますけれども、どうでしょう、先生の立場として、社会復帰といふのは、どの様に考えてらっしゃいますか。

河口 今のところ、僕のところの患者さんでは働いている人は、そのまま働いていますね。それから、一人の一日の生活の時間のうちで、治療にさかれる時間というのは、当然あるわけですね。そうするとやはり、短時間の透析というのが良くて、患者さんも元気であれば、非常に良い事かなあ、と思います。外来で通わせて入院はさせたくないという事なんです。あくまでも、たとえば

透析の導入期の時は、午後からちょっと会社を早引きしてもらいまして、シャントの手術をしてもらい、帰ってもらって、次の日は会社に出てもらって、傷口の交換だけしてもらおう。そして傷が治ってその間に食事療法を覚えてもらって、そして、だいたいこれでもって透析できるなあと、しかも元気を損なわないで、そのまま会社の方で時間が許せば、透析の時間だけさいてくれれば、そのまま勤務できるわけですね。そういう様な意味で、導入の時期からやはり僕としては社会復帰というものを、仕事をクビにならない様にですね、長く空けますと職場取られますよね。そんなに暇な人を雇っているわけありませんから、ですから、そういう様な事でやってたわけですね。まあとにかく根本というか、一番初めに元気でいない事には仕方がない。それから、会社を休まれては困る。休まない様に治療していこうという事は考えていますね。

実績を示し、腎移植の啓蒙を

司会 では最後に平野先生に、先程も申し上げましたけれども腎移植の課題と申しますか、結局、腎移植提供登録が少ない。十年たってもようやく九千です。我々が

移植を望んでも、まず不可能であります。これから腎移植というのは、どんな大きな課題を持っているのでしょうか。

平野 まあかなり厳しいというか、今一番ズシンとくる課題ですね。何よりも死体腎移植が実現できない事の問題があるんだと思います。これは今、心臓とか肝臓移植は、生体移植というのはないので、もっと複雑なんですけれども、まあ腎臓の場合には人工腎臓というものがあるし、生体腎臓もあるので、今すぐは無理しない。それから決定的に日本の社会的風土が、脳死という事を絶対に受け入れないと万が一、決めた場合には、これは社会的選択になるわけで、その場合には、我々はしたがわざるを得ないと考える時もあります。ただ、おそらくそうはならないだろうと思います。腎臓の場合には、何よりも、人工腎臓がありますから、これが非常にどんどん良くなり、昭和四十五、四十六年の事を考えたら本当に天国と地獄だと思えますね。当時は人工腎臓で頑張っていたかどうかという事、そして社会的説得力のある生体腎移植を、どんどんやって、やはり腎臓移植の利点について、腎臓移植をやってうまくいった場合には、こういう事ができる、長期フォローした場合にもこれだけの成績が出るのだという事を、もう一度啓蒙する意味も

含めてですね、やっていくという事が、我々医者にとつてはひとつの課題だと思えます。それから何よりも、今の社会的な要因からいきましても、今たとえば脳死であっても、臓器を提供するという事を生前に登録すれば、死後、それで取って良いという事を認めるという事がありますよね。そんな風な形でやはり腎提供登録を、今の少なくとも十倍以上の数でやれば、社会的な動きとして大きな力になるんじゃないか、それが加速すれば、脳死の問題も解決できるんじゃないかと考えています。ちょっと不十分かもしれませんが・・・

司会 患者の皆さん、言い足りない事がまだまだあると思えますけれども、先程から患者会の中で最近は特に導入期に苦勞も少なくなった為に、社会的な恩恵をストレートに受けるため、非常に関心が希薄です。患者会に入る人も、抵抗をもっているようだし、それから、患者の運動をやる人は少ない、そういう意味で道腎協が十年ある中で、なかなか若い人が育っていない。なかなか若い人が育っていない中には、何かあるかと申し上げますと、あまりにも恩恵の実感が身近に感じていないという事です。そんな意味で私共はこの十年を契機に、これから十年、二十年という透析が可能と思えます。腎移植についてもいろいろ先生方にご研鑽願ひ、私共の会も

それに伴って、切磋琢磨しながら発展していきたいものと思えます。今日はせっかくの体育の日、ご出席下さいました事を、お礼申し上げます。今日は時間がまいりましたのでこれで座談会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

道腎協のあゆみ

昭和五十二年五月八日、月寒公民館において、札幌腎臓病患者友の会第四回総会議案書にのっとり、「道腎協発足を目的とした、設立準備委員会」を決議されているが、それより以前の五十二年三月六日、札幌、苫小牧、室蘭、函館、留萌、旭川、北見、釧路の八地区の集まりで、代表者四十名が参加して開催され、会長細川哲夫氏、事務局長阿部隆氏、総務担当会計留目英生氏が役員候補として選出され、五十二年十月一日、サッポロハイツにて、全腎協の小林事務局長をお迎えして、全道より前記八ブロック結成された。その後漸次増え、今日的には、十五ブロックとなつて、会員数二〇〇〇余名を数えるに至っております。

第四章

腎臓病と闘って

— 医師・スタッフ・会員・患者家族の声

透析医療の質の確保

日本透析医学会
札幌北クリニック

今 忠正先生



北海道腎臓病患者連絡

協議会設立十周年おめでとう
ございます。この十年の足跡を思い返すとき
皆さまにおかれましては
感慨深いものがあると思

います。

医療技術の革新に伴う医療の質の向上、疾患の多様化による医療需要の拡大から国民医療費の飛躍的増加をもたらしました。一方、日本は高度経済成長に終わりを告げて安定期を迎え、医療財政は緊迫した状態となり、受益者負担の思想が福祉医療行政にまで取り入れられ、行政当局はこの方針を何度となく透析医療の分野に持ち込もうとしました。この動きに対し全国透析医学会連合会（現在財団法人日本透析医学会）はその不当性を訴え続け、現在の透析医療の質の確保に全力を尽くして参りました。

昨年暮、死体腎移植を希望する患者さんを伴ってクリ
ーブランド クリニック（アメリカに於ける透析医療
発祥の病院）を訪れる機会があり、アメリカの透析医療
の現状に直に接する事が出来ましたが、画的に小面積
のダイアライザーを行い、三時間、週三回の透析が標準
でありました。

これは医学的根拠に基づかず透析方法ではなく経済的理
由によるものと考えられます。我が国での現状は個々の
患者さんの病態や症状によって透析方法を選択できます
が、これは医療担当者にとっても、患者さんにとっても
幸せなことであると痛感致しました。

挿りかごから募場までと福祉国家の代表ともてはやさ
れたイギリスでは、六十五才以上の患者さんを透析療法
の対象外としています。有限資源配分の優先順位決定に
関して、経済効率を物差しとしているのであります。我
が国に於いても切迫した保険財政のもとで同様な考え方
が導入されつつある様に思われます。

これから迎える、新しい十年も決して平坦な道のみで
はないと思われませんが、力強い第一歩を踏み出されるこ
とを希望します。

相互の連帯を一層密にして

札幌市透析医学会会長

佐藤業連先生



北海道腎臓病患者連絡協議会が発足してから、十周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。「どうじん」をたまたま見せて頂いておりますが、此の広い、北海道をブロック毎に組織してよりよい医療と福祉の向上のために活動されている努力に敬意を表します。

わが国で透析療法が保険適用になってから二十年になります。透析器及び技術は非常に進歩し、治療成績は著しく向上し、十年以上の長期生存者は七千名を超えるに至っております。一昔前には全く予想も出来なかった事でありました。そして透析治療を必要とする腎不全患者は誰でも経済的負担なしに透析療法を受けられるようになり、対人口比では世界一の普及率を示します。また、透析療法の内容については血液透析に限らず、CAPD・

血液ろ過など、いわゆる血液浄化法が多様化され、状況に応じて幅広く、選択が行われています。

これらのことは、腎不全患者にとって大きな福音になっております。

一方、腎不全の根治療法である腎移植は年間五百例程行われておりますが、大部分は生体腎臓植であり、死体腎移植は欧米に比し著しく立ち遅れております。昭和五十九年五月に北海道腎バンクが発足し、十一月に北海道腎移植センターが市立札幌病院に設立され、本道の腎移植体制がととのいました。今後の脳死議論の解決が待たれるところであります。

また、長期透析療法に伴う合併症として骨障害・貧血・動脈硬化症・手根管症候群などありますが、正しい自己管理で対応する事が望まれます。

現在、行政的に福祉と医療は非常に厳しい状態に置かれています。雇用問題や生活の中で個人の努力を超えた問題が沢山あります。相互の連帯を一層密にして今後、益々ご活躍されますようお祈り申し上げます。

一歩一歩着実な前進を

市立札幌病院
腎移植科

平野哲夫先生



結成十周年おめでとう
ございます。申し上げます
と共に、これまでの皆様
の御苦勞をしのび、今後
の益々の御発展をお祈り
申し上げます次第です。

腎臓移植も血液透析と共に慢性腎不全の車の両輪として位置づけられながら、その歩みは遅く、ようやく安定した段階となりました。

昨日の道腎協の腎提供登録街頭キャンペーンに参加し例年になくその場で腎提供登録カードに記入されていく市民の方々が多く、運動の着実な歩みを実感した次第です。

目標は遠く、実現は急がねばなりませんし、待てないという現実もあります。しかし一歩一歩、着実な道のりを実現してゆくために、腎不全の治療に携さわる者とし

て、皆様と一諸に頑張ってゆきたいと思えます。

日進日歩の透析医療のなかで

石田医院院長

石田 初一先生



北海道腎臓病患者連協
議会設立十周年を迎えら
れ誠にありがとうございます。

この十年間は、透析を受けられる皆様にとって、あるいは透析施設を用する私共にとっても、その根幹を築いていく上では大変な時期ではなかったかとしみじみ思う次第であります。

十年前を振り返ってみますに、私共の透析施設も世間一般的には珍しい部類にはいる医療施設を整えた病院でありましたし、又、患者の皆様方にとりましても理解されずに社会の中に漂っていたという状況ではなかったかと思えます。しかしそれがこの十年の間に、全国の腎臓病患者の皆様が手をたずさえてさまざまな社会活動、キヤ

小診療所での透析も一考

市立稚内病院

泌尿器科

中西正一郎先生

ンペーンを通し国民にアピールしてきたことにより、現在では広くその存在を知られるようになりました。透析施設を置く病院もこの十年間にどんどん増えまして、以前では遠方からわざわざ足を運ばなければ透析を受けられないような患者さんでも、もっと身近で透析が受けられるようになってきました。透析の技術や透析機械も日進月歩の歩みを早めるようになりまして、新素材の開発改良、新技術の発表や改良と本当にめまぐるしく変化していったと思います。今では、透析患者さんの社会復帰は当然に認識されておりますが、昔はまだ勇気のいる選択ではなかったかと思えます。

このように、いろいろな面において変化してきたこの十年でしたが、この間に培った力を土台にして「どうじんの皆様が強く団結され新しい会員を増やされ、この根幹に枝づけをされて、より大きな幹をつくれるように頑む次第であります。私達も身の周りに様々な諸問題（例えば、透析機器の改良や腎移植等の問題など）が山積みとなっておりますが、知恵をしぼりながら根気強く一つ一つ解決に近づけて行きたいと考えております。今後の皆様の益々の御発展を心からお祈りいたします。



ている様です

当院は三年前に全面新築となり旭川以北では珍しい（？）七階建ての新病院で三階に透析フロアーがあり、現在透析台数十九、患者数は四十名を超え、毎年毎年個人用透析器を数台導入しつつ、その場しのぎに明け暮れています。

スタッフは医師三名、看護婦七名技師三名で和気あいあいとしています。患者さんには優しくスタッフ同志は厳しく」というモットーのもと、時には医院長みずから導入、回収という場面もあります。

患者さんは利尻、礼文の方や、冬期には交通途絶の可能性のある遠方の方もおられ、市内にアパートを借りられたり、転居されたりと広域管内施設ならではの苦勞もありません。小診療所での個人用透析器を用いた小人数での透析維持が可能ならと時々考えて居ります。

常に満床というせいばかりではありませんが、当科では積極的に腎移植をすすめており、昨年四月から三名施行され、全員健在でまた、今一名が近々北大にて手術予定となっております。

稚内市は水産業の落ち込みが激しく、主に利尻礼文を中心にした観光開発に市をあげて取り組んでおります。今年の夏から稚内へ東京の直行便が運行開始となり、その経済効果の大である事を市民が期待しています。しかし内地からの透析患者の旅行での来稚の機会も増え、曜日によってはお断わりをせざるを得ず、全く心苦しく思っております。

一方で札幌、旭川の透析施設の皆様には日頃、色々とお世話になっており、この紙面をお借りして御礼申し上げます。次第です。

十周年おめでとう

苦小牧千秋
医院々長

千秋

肇先生



北海道腎臓病患者連絡協議会発足満十周年を迎えられましたことは、会員皆様方の、たゆまぬ努力と精進のたまものと、ご同慶の至りであります。

我々透析従事者も、この間皆々様方共に歩み、この歴史を作ることが出来たことを誇りと感謝し、なお一層、医療面での新しい技術の提供を、願ひ、本会のますますの向上を祈念致しまして、お祝いの言葉と致します。



四台の人工腎から始めて

帯広クリニク
院 長 中尾 昭洋先生



昭和四十七年五月に帯広協会病院で血液透析装置を始動したが、十勝地区に於ける慢性腎不全治療の発祥でした。それまでは、腹膜灌流などで急場を凌ぎ札幌に移送したりしていましたが、手遅れとなる事も多く、何とか帯広での治療体制を確立したいとの希望が強かったために、外科が中心となって四台の人工腎の設置に漕ぎつけたのでした。

最初の頃は、セロファン膜を層状に張って、ホルマリンで消毒して使用するという大変、手間のかかる方法で、透析の前日からの準備が必要で、その上ホルマリンガスで目は痛くなるし、透析中のリークも多く苦労しました。市立岩見沢病院で研修を受けた岩永カニ先生や、看護婦の二木さん、井尾さんが非常に熱心に頑張ってくれましたので、順調に軌道に乗り、患者さんともどんどん増え

ました。透析器も改良されてディスポとなり、準備なども少し楽になりましたが、まだ効率が悪く、嚴重的な食事管理をしないと温水や高血圧が続いて心肥大や肺水腫なども起こす危険があり、看護婦さんに叱られながら死んでいった数名の患者さんが印象に残っています。

二年足らずで一杯になり、どうやりくりしても十名以上の患者さんは収容出来ず、新しい患者さんは札幌などにお願ひする様になりました。昭和五十一年に開業してから、十名程の患者さんが帰って来ました。その後、第一病院・浅井医院・西病院・すとう泌尿器科・厚生病院で透析の設備を整えて、現在十勝管内の患者数は百二十名となりました。

これからもまだ患者さんは増加する傾向にありますし透析機器の進歩と共に透析歴の記録も塗り替えられていくと思えます。出来るだけ快適な透析生活を送り、更に進んだ治療が開発され、移植が手近に受けられるように皆様と一緒に努力していきたいと思います。

血液透析を始めた頃

北見市石田医院々長 石田 卓也先生



昭和四十三年のある日、私は札幌医大の胸部外科で心臓手術をした二十才の女性の担当医であった。彼女は手術後の排液不良から、心タンポナーデを

おこし、続いて急性腎不全を併発していた。導管を変えて、タンポナーデはすぐ治ったが、腎不全は治らなかった。無尿が続ぎ、高窒素血症になり、約一週間後に亡くなった。

あんなに元気に心臓は回復し、鼓動していたのに！意識ははっきりしていたのに！家族とともに、大声で泣き叫びたい気持ちであった。この悔しさを胸に刻んで、将来は治してやろうと心に誓った。

翌年、大学の麻酔科に洗濯機のような型の大きな透析器械が導入された。この器械は、この年発生した、無尿の心臓手術患者を、初めて、助けることが出来た。

しかし、この頃は血液透析療法にとつて、「夜明け前」といった時代であった。セロファンの半透膜が高窒素血症の一时的な低下や除水能力があるとしても、慢性腎不全の患者さんの代用腎として、長期で使用することすら、半信半疑であった。現在、予想されている血液浄化療法の概念など、誰も考えていなかったと思う。

昭和四十六年春、私は道立北見病院に移った。このオホーツクの地に、心臓手術の出来る施設を開くためであった。私は新しく購入するリストの中にN社製のコイル型透析器二台を追加した。

翌四十七年に当時、岩見沢市立病院の今先生や札幌逋信病院の渡井先生の助けをかりて、血液透析療法を開始することが出来た。

第一号患者のN君は三笠市立病院で腹膜透析を受けて郷里の北見へ戻って来た。全身ダルマのように浮腫で腫れていたが、気は元気で、蛋白制限の指示を無視して、スキヤキを作って食べたりして、婦長のブラックリストにのっていた。そのうちに、体も次第に元気になって、数年後に看護婦のS君と結婚して皆を驚かせて北見を去った。現在すし職人しながら、元気で滝川クリニックの菅原先生の御世話になっていると聞いている。今年の正月も元気な顔をみせてくれると思う。

第二号のT君は模範患者である。長年患者会の世話をし、昨年手骨間症候群で手術を受けたが、元気で皆のリーダーとなっている。

私は五十年春に、心臓外科医をやめて北見市内に透析専門の施設を作り独立した。予期に反して慢性腎不全の患者が急激に増加して、道から買って貰った五台の透析器では昼夜兼行でもやっていけなくなったからであった。今でも、旧の道立病院の暗い透析室で鼻汗をすすりながら、環流液を作り、もう夜中だなど、スタッフと顔を見合わせたシーンなどを思い出す。

透析施設開設

十八年目を迎えて

岩見沢市立総合病院

透析センター

大平 整爾先生



「道腎」が十周年を迎えられたとのことで、これまでの関係者の皆様のご努力に心から敬意を表します。十年間の歩みは決して平坦なものではなかったであろうと、心痛すら覚えます。私共の透析施設は、今年で十八年目に入ります。先頃、ささやかな記念の雑文集を発刊いたしました。このため、図らずも創設期、発展期から今日に至るまでの歩みを顧みる機会を得ました。手元に残っている色々な記録に目を通しますと、実に様々な出来事があり患者さん、ご家族そして私共医療スタッフが三者三様に苦労したのが偲ばれます。

昭和四十五―四十七年頃は、透析のために入院される方ほとんどが救急車などで担送されて来ました。病室から透析室への移動も多くの患者さんがストレッチャーを必要としました。外シャントが主体の時代は日に十



数回の血栓除去や洗浄が昼夜兼行で行われて、患者さんにとっても私共にとっても大きな苦痛の種でした。除水も正確に行うことが大変、困難でした。いま、透析療法は大きな進歩を遂げました。透析導入後十年以上を経過した方が北海道において四百余名にも達しているのが、その端的な証しであり後に続く人々の大きな支えともなっています。しかし、またこの医療法は新しい分野だけに、これからの究明を急務とする新しい病態をも生み出しています。色々な問題を解決して、願わくば、甚大な費用を要し、苦痛に満ちたこうした治療を避けえない疾患そのものの発生を未然に防ぎたいとの切望いたします。

過渡期にある現在は、皆さんに実りの多い透析生活を送っていただきたいー私共も全面的に協力したい所存です。透析医療が正しく快適に行われるための当事者の主張は尊く、当然のことでありましょうが、しかし、同時に自らを律していくことも忘れてはなるまいと思うのです。

どうじんの今後のご努力に期待するところ大であります。関係する人々総てが、この組織を大切にしていきたいものと思えます。

目ざましい医療工学

函館泌尿器科会会長 平田輝夫先生



道腎協発足十周年おめでとう御座居ます。一口に十周年と申しましたがそれは大変な事であったと思います。それには会員の皆様の地道な努力と

情熱があっはじめて可能であったと思います。

数多くの仲間も増えた事でしょうが、又、多くの仲間も失った事でしょう。それぞれの方々の残された貴重な教訓は無駄にはしたくないものです。

聞く所によりますと、道腎協の会員も二千名という数になると聞いて驚いております。

さて二十世紀から二十一世紀にかけて、医学を推進するものに技術革新があります。

即ち、生物医学工学とバイオテクノロジーです。この両輪に支えられて展開するのが人工臓器なのです。

生命（生物）器材・機械科学・微小電子科学・或いは細胞培養・細胞融合等の進歩はめざましいものがあります。将来、生体臓器よりも面では優れた人工臓器の出現は決して夢ではないと思われれます。

臓器移植とこの人工臓器とは当分の間は車の両輪関係で共存して行くでしょう。臓器移植は国民感情や宗教・哲学・法的な色々な厚い壁があって我国では仲々思うように行かないのが現状ですが、それはさておき人工臓器ことに人工腎について申しますと、我々が昭和四十八年頃に行っていた時と現在では比較にならないほど進歩しましたし、又、社会行政面でも多くの進歩がありました。現在人工腎臓は小型化、簡便化の方向をたどり、携帯型、体壁装着型、体内植込み型をめざす研究がすゝめられておりますし、医学の進歩はめざましいものがあります。現代よりも、もっともっと良き時代が必ず到来します。それを信じてこの近代医学の恩恵を一人でも多くの透析治療者が受けられるよう自己管理を良くし、充実した有意義な毎日を送って下さる事をお願い致します。

テクニシヤンの身分確立へ

北海道透析技術者
交流協会 会長

井 関 竹 男



この度の、どうじん十周年を心より御祝い申し上げます。

また、役員並びに会員の皆様の地道な活動に対して、敬意を表したいと思います。

と思います。

ここ十年間の透析医療は、著しく透析技術の進歩や透析施設の充実により、道内の透析患者さんは、三千名を超えていると聞いております。そして、数年後には、全国で十万名を超えたと言われています。この時期における貴会の役割や運動は、非常に重要になって来ると思われ、今後の活動を多いに期待するものであります。

私達は、透析医療スタッフの一員として、今日まで従事して来ましたが、本年五月二十七日の第百〇八回通常国会において、私達の悲願である透析技術者等の資格法として、「臨床工学技士法」が成立し、来年春には、法

律が施行され、その秋には、第一回国家試験が、実施される予定です。

この臨床工学技士法制化の理由として、「近年医療機器の進歩等により、生命維持管理装置の操作および保守点検に従事する専門技術者の役割が重要になってきたことをかんがみ、新たに臨床工学技士の資格を定めるとともに、その業務が適正に運用されるように規律する必要がある。」ということがあります。

この法律の成立も各学会の先生方や貴会を含めた全腎協の方々への御支援の賜物であると思っております。今後は、この御支援や御期待に答えるために、臨床工学技士の国家資格を取得し、専門職として、より良い透析医療に貢献したいと考えております。

最後に貴会の益々の発展をお祈り申し上げます。微力ながら本会も、側面から支援したいと考えております。

食事は治療の柱

人工腎臓透析食栄養士研究会会長

札幌北クリニック 佐藤 妙子



北海道腎臓病患者の会が、この十月一日で丁度十年目を迎えられると、御案内を頂きまして、改めて皆様の歩いてこられた道を考えますと、本当

に大変な月日を積み重ねられて今日のような強力な会にされた事と、感じさせて頂きました。

最初は多分同じ悩みを分かち合う仲間の会ではなかったでしょう。行政への働きかけ、医療の色々な問題へと、病气と戦いながらの活動は言葉に尽せない御苦労があった事でしょう。それらの努力の積み重ねが透析を必要とする患者さん全員が安心して十分な治療を受けられる現在のようになつたのでしょ。

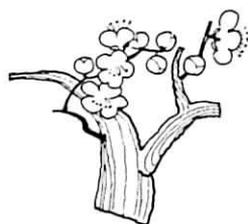
これからの問題になることの一つに高令者の一人暮らしが増え、食事を適切に摂ることが困難になる方が多くなるのではないかという事です。市町村等の福祉対策事

業で、給食サービスや自治体病院等が、病態に合った食事を出すことが出来ないものでしょうか。

食事も治療の一つの柱であり、基礎になるのですからおいしく楽しんで、バランスの良い食生活をして頂きたいのです。

そして私共はそのお手伝いを、これからもさせて頂きたいと考えております。

昨今の社会状況では、医療・福祉がまた退しそうな気配が感じられます。十年を一つの節目とされて、これよりもより一そう明るい展望が開けて来ます事を、お祈り申し上げます。



今なぜ患者会なのか

札幌北クリニック 村 本 徳 雄



昭和五十二年十月一日
札幌市内の一室で現全腎
協事務局長小林氏を招い
て、全道の仲間が集まり
道腎協を結成して以来十
年。思えば長くもあり短

くもあった十年でした。

この間、志を半ばにしてこの世を去っていかれた仲間を大勢見て参りました。その方々の無念には筆舌に尽せぬものがあります。

昭和四十九年四月岩見沢で透析を開始した私にとってそれは苦痛以外の何者でもありませんでした。見るもの聞く事のすべてが未知の世界でしたし、昨日元気だった人が今日はもう亡くなられたという事も日常でした。

透析自体未知の部分が多く、現在では考えられない事が多かった様に思います。

しかし反面、医療福祉制に於てはすでに健保適用(昭

四二)、内部障害者としての認定と年金の支給(S四七)それに伴う更生医療の適用(S四七)、重度身体障害者医療給付制度適用(S四八)と主な柱が確立されておりました。しかし当時の私にはそれが当然のように思われ親に金銭的な負担をかけなくて良かったなあと考えた程度で、その陰にあった諸先輩や医療関係者の方々の御尽力には考えも及びませんでした。言うまでもなく、私が苦痛に耐えながらも金銭的な心配を全くせずに透析を受けられたのは、生命をかけた先輩の方々や医療関係者が力を合わせ諸制度を国や自治体に制度化させたお陰でした。

もう四、五年早く透析を受けなければならなかったとしたら、今の私はなく、「命の切れ目」であった事でしょう。

私はその事を知った時、自ら患者会の一員として何か役立ちたいと考えました。

私たちは現在年間六百万円からの高額な医療費を費やし生命を承らえております。その仲間が全国に七万四千人もいる訳ですから決して安直に自分一人で生きている自分さえ良ければなどと考えないで下さい。私達透析患者にもこの社会からの恩恵に応える何かがあるはずで職場に復帰して頑張る事もそうでしょうし、たとえ体が

思うようにならない方だとしても、患者会を通して腎臓病の恐ろしさを社会に啓発する事は出来るはずです。

ここ数年、国や自治体は財政再建を理由にそのほこ先を医療や福祉に向け受益者負担の名のもとに、弱い者いじめをしています。

私達の諸先輩が私達の為にひとつひとつ築き上げて下さった諸制度が、今、足もとから切り崩されようとしています。

道腎協十周年を機に私も含め今一度皆さんが原点に立ち帰り、なぜ患者会が必要であったのか、なぜこれからも必要なかを、それぞれの胸の中で再確認していただければ幸いと思うのです。

(透析歴十三年八月、三十五才)



夫の食事を支えてこの十年

主婦 岩崎紀威



た頃でした。

渡井医院に入院した夫は、即シャント手術、即人工透析が始まったのです。顔はむくんで嘔吐が続き、血圧も二〇〇以上でした。腎不全の末期状態で死の一步手前でした。それらいり今日まで十一年目の透析に入りました。八年目頃から合併症の骨の腰痛症にかかり副甲狀腺の摘出を行いました。それ以後は漸時回腹して元気で通院しております。この頃は体重も追々増え、健常者と変わらない生活を続けております。

毎日の献立て、それは食事への気配りは透析食という重荷を背負って、カロリー計算から始まって、何をどう

忘れもしません。透析が始まりましたのが、和五十二年六月七日、今から数えて、十年前でした。遅咲きの桜が散って庭の牡丹の蕾が顔を揃え

して食べさせようかと、そのことばかりが頭の中に一杯で、泣きたくなりました。カロリーの計算に追われると味気もない食事に終始して、見た目の美しさを失って食欲がなくなってしまうので、口当たりのよいものを少量でもよいから食べさせるように、そして味付けには塩分以外で、とるように入夫して参りました。特に透析当時は高蛋白質の肉食に拒絶反応をしめし、殆んど箸をつけませんでしたが、味付を研究して、薬だと思っ食べさせました。初めの頃の私は、それはそれは食事への気配りは大変な日常でした。一年、二年と経過するうちに、何でも食べてくれるようになりました。

そんな状態のなかで、低かったへマトも二〇から三〇に上り体も運動するようになって、今日では見違える程に元気になりました。

今にして思えばあの当時の苦勞が嘘のようです。カロリーの計算も大事なんでしょうが、見た目の美しさ、おいしさを食べさせる、このことが透析食には大切ではないでしょうか。

透析食になって家族が減塩醤油に切り替えたのもよかったですと思います。

夫はこの十年間腎臓の患者運動にも熱心で、一日として家にじっとしていることはなく、いつでも走り廻って

おります。何かに熱中することが病気を忘れさせる誘因であったと思います。

俺は十年前に死んだ命だから貰った人生を患者運動に余生を捧げる」このことが夫の口癖で骨身を惜しまず、「事務局」に「東京の会議」にと一生懸命に動いております。

夫の食事を支えてこの十年、喜びも悲しみも共に味わいながら、結婚して四十年がまたく間に過ぎようとしております。三人の子供達も皆世帯をもって、私達夫婦のこれからの、長い人生が始まろうとしております。病気に負けず、患者運動に身を挺している夫は、それに生きがいを見出して頑張っておるものと思います。私の手料理で夫の健康が保たれ活動できる毎日であってほしいと、ひたすら祈っております。

(道腎協会会長夫人)

感謝の心を白菊会へ

小樽市第二病院 並木 幸

久しぶりの秋晴れのすがすがしい空のもと、トンボがとび交う野にコスモスが美しく咲きみだれております。皆々様にはお元気でしょうか。

私十二月を迎え、透折十年目に入ります。二年前に心臓障害が出て、小樽市立第二病院に入院しました。現在は毎週土曜日に帰宅、月曜日の朝食をすませて病院に戻っている昨今です。

一時大変心配しましたが、先生方はじめナースの方々のお手厚い治療や御指導に加え、患者さん方、多くの友人、家族にはげまされて、今日有るのを有難いことで、心から感謝の毎日を過ごしております。

かえり見ますと、膀胱炎をわずらって十五年。先生方の御研究、医療機器、医薬品の進歩に加えて福祉の充実した環境に恵まれ、治療に専念出来ます我が身の幸せを、毎日感謝しつつ懸命に生きております。

今後ささやかながら社会のため同病の方々のためにもと考え、将来白菊会の入会をも家族と相談し合っております。

ます。

只今は味覚の秋、ぶどう、梨、りんご、柿など店頭に所せましと並んでおります。

お互いに自己管理をしながら頑張りましょう。共に明るい人生を送りたいものです。

どうぞ末永い御指導をたまたまります様によりしくお願いいたします。
(透析歴八年十ヶ月、六十一才)

難病連全道集會に参加して

小樽・朝里病院 齊藤 一子

霧の街、釧路での第十四回難病患者・障害者と家族の全道集會が、八月八日、九日と開かれました。小樽からの四名(内家族二名)はまるで、修学旅行に参加する学生のように、希望列車、「エトピリカ号」に乗りこみました。

私は透析を始めて四年半!何かの行事に参加しようとする、シャントのトラブルで、入退院をくりかえしていたため、仲々出席出来ないでいました。道腎の總會に出た時、釧路の上田さんの熱心なよびかけに賛同し、



是非とも今年は、釧路に行こうと思っていました。各集會に参加し、話を聞くたびに何も協力できなかった私は、胸がしめつけられる思いでした。

まず第一が、広告、寄付金を八百五十万円も集め、エトピリカ号、八両を、五百五十万円も出してくれたため、参加者が無料で釧路まで行けた事。第二、腎臓病の分科会で十七年間透析を受けている人の話、医療費自己負担の時からで、息子のために親が不動産を処分、医療費にかえ、家族ぐるみで難病とたたかってこられたとの事。

第三の全体会で別海からの透析患者の訴え、週三回百キロメートルの道のりを、車で通院している。冬の猛吹雪の時など、帰宅出来ない事を考え、車の中には、かならず寝袋と非常食をそなえている……。医療が充実さ

れてきたといわれているが、それは道央方面の事で、道北の医療福祉は、かならずしも、まだまだという感じを持ちました。

釧路をはじめ道北の皆さん、本当に御苦勞様でした。

透析を受けるという事は、社会復帰が第一と聞きまし
た。私も仕事をしながら週三回受けています。今大会に
参加し、いろいろな事を勉強させていただきました。そ
して、一日一日がどれほど大事か、もっともっと有意義
にすごしていかなければと、心に誓い、帰路につきまし
た。
(透析歴四年十ヶ月、五十四才)

目標を持つて積極的に生きよう

小樽市 S Y 生

私が透析を始めた十年前は、治療方法も確立されてな
く、透析を告げられた時は、目の前が暗くなり、気持ち
落ち行みも激しいものでした。

しかし医療の変化は日進月歩で、今では透析を始める
時に悲壯感を持つ人は少なく、社会復帰という大きな目
標を持つようになります。不自由な体や環境にあり

ながらも自分の人生を捨てずに精いっぱい頑張って道を
切り開いている多くの方々の体験談を見たり聞いたりす
る時、ともすれば氣力を失い、自分の中に閉じ込めて
しまうことの多い透析者の傾向を打ち破ることが大切な
ことと思います。障害者ながらも一歩でも健常者に近づ
こうと目標を立てて努力することが必要ではないでしょ
うか。

一番幸せなことは仕事をする事だと思いますが、こ
れには体調の問題や雇用条件の問題があって透析者の半
数位しか解決できないかもしれません。

次に趣味を追求するのも良いと思います。透析を受け
ながらも明日はこうしよう、あゝしようと思像するのは
とても楽しいことで病気の辛さを忘れさせてくれます。

又、患者会やボランティアなどで活躍するのも良いで
しょう。それで多くの方の役に立つということも立派な
目標のひとつです。

いずれにしろ何か目標を持つことが大切なのです。自
己管理にしても何か目標を決めて行くと向上するとい
います。

とかく、消極的になりがちな透析者ですが、気持ちを明
るく持つて外に出る事です。仕事をして、社交をし、
一人でも多くの方と接し、みんなの持っている活力やエ

ネルギーを吸収することです。

私は現在のところ順調な透析生活を送っております。

幸い、理解ある職場に恵まれ、適切な指導と協力を惜しまぬスタッフに囲まれ、明るく張りのある毎日を過ごすよう心がけていります。

病と切り離せない人生ですが、お互いに励ましあって生きて行きたいものです。
(透析歴十年、四十才)

私達の結婚

伊達クリニック 藤 田 洋 子

透析者同志である私達が結婚して、早いもので三年が過ぎようとしています。

いま振り返ると、よく思いきって結婚の決断をしたとつくづく思います。当時、夫は勤めていた会社を辞め失業中、私は血圧が高く決して良い体調でなかったため、はたしてこんな二人が生活していけるだろうかという不安がありました。それは夫も同じではなかったかと思えます。しかし、なんとか結婚式までには夫の新しい仕事先も決まり、いざ新生活を始めると、私達が考えて

いたよりも順調なスタートを切ることができました。私自身も血圧が安定し、体調も良くなっていったのです。

私達の朝は夫の仕事の関係で起床が早く、五時半から始まり、夜は十時にはやすむようにしています。一日の



流れは家事に追われる毎日ですが、両親と暮らしている頃よりも内容が豊かで、その分、体にかかる負担が大きくなったのですが、私はこの生活にすぐ慣れて体力もついてきました。この三年の間には、私が血圧や貧血などで体調をくずすこともあり、夫は仕事上

の疲労や肩の痛みなどで、全て順調とはいえない日も多けれど、そんな時は、無理をせず家事の手抜きをし、入院した場合は近くに住む義母に応援してもらったりもします。

夫は勤めているので私にはいきませんが、家で

充分休んでほしいと思っています。

透析者同志の結婚は難しい面もあるのですが、食事のことや透析をしている者でなければわからない体の不調もわかりあえること、一人ではつらいと思われる精神的な部分も二人でいることによって心強い思いをすることも多いのです。

私達のささやかな願いは、体調を維持していくための努力をして、もう生活の一になってしまった透析とつきあいながら、二人で体力的にも精神的にも無理しないでマイペースで歩いていけたらと思っています。

(透析歴夫十一年三ヶ月、三十六才)

(透析歴妻九年三ヶ月、三十四才)



ハンデがある、だからこそ

士別市市立病院 宮 武 郁 江



透析治療を受け始めて丸二年と二ヶ月。たった二年前の事なのに、なんだかも随分経ったような気がします。

私が、腎臓が悪く人工

透析の必要がいずれあるとわかったのは、今から五年前札幌で専門学校を卒業し、就職したばかりの春でした。世界中がぐるぐる回るようなひどいめまいが三日ほど続いて、仕事にもさしつかえるため、耐えきれなくなっ会社近くの個人の内科医院へ行きました。そして尿と血液検査の結果から、北大泌尿器科を紹介されたのです。

子供の頃から決して丈夫な方ではなく、病院通いを欠かした事のなかった私でしたが、大病院にかかる程の大病などしたことはなく、「まさか、そんな大袈裟な」という思いと同時に、黒い不安のようなものが胸の中に

生まれて来るのを感じていました。

大学病院での初診の日、まず最初に腹部を押してみても言った助教の言葉が、今も忘れられません。

「右側の腎臓が無いかもしれない。」その時は、その言葉の持つ意味がよく分からず、ただ不安が一層広がって行くのを感じているだけでした。

造影剤を注入しての腎臓のX線撮影、その他諸々の検査の結果分かったのは、右発育不全腎及び慢性腎炎。「五、六年後にはおそらく人工透析を始めなければならぬいだろ。」ということでした。

あれから五年。五、六年は大丈夫な筈だった私の腎臓は、三年目にして早くもダウン。六十年七月二十二日、人工透析をしている人なら誰にとってもきっと忘れられない「初透析日」を迎えました。

とうとう、来てしまった……。さすがにショックとこれから先への不安のために涙が止まりませんでした。それと同時に不思議な安堵感が私の中にありました。いつかは人工透析に。そういわれてからはいつ「その日」が来るのか、不安で不安で、いっそ全てを投げ出してしまいたい思いにかられながら過ごした三年間が、その時終わったからです。

そのつらい三年間のお陰でしようか、私の立ち直りは

早く、周囲の理解と協力、病院スタッフや、最新の機械のお陰で、いまま尿の出は止まることもなく、ほぼ普通の人と同じ尿量を維持（俗に「カラシッコ」と言う奴ですが）する事が出来、元気に透析を続けています。

第二の人生が始まった日から二年、今年の春、透析を受けながら、二ヶ月かかって念願の自動車免許を取りました。今は父の車を借りて通院しています。

ハンデがある。だからこそ一層充実した毎日を送って行く。それが、今の私に出来る精一杯です。これからも一日一日を大切に生きて行きたいと思います。

（透析歴二年二ヶ月、二十四才）



「一ヶ月の生命」が 社会復帰へ

稚内市立病院 本間 建治



透析を受けてもうすぐ一年を迎えようとしています。今、振り返って見るとさまざまな事が思い出されます。腎不全になって入院し、医者からは

「一ヶ月の命です。」と言われた時、愕然としました。当時死を覚悟して自分の身の整理をしました。妻も子供達も同じく覚悟していたようです。

しかし先生方の努力によってなんとか生命を維持することが出来ました。しばらくの間は車椅子の生活が続きましたが、透析の回数が増すにつれて、病状も次第に良くなって来ました。

始めて透析を受けた時の検査結果はヘマト一〇三・二で手や足はしびれていました。十一ヶ月過ぎて今はヘマト二〇六・五となって、初めて透析を受けた時の二倍になっています。

六ヶ月目から仕事も出来るようになって大変喜んでます。あまりにも早い社会復帰に病院の関係者も驚くほどです。仕事を始める切っ掛けとなったのは、透析者でも何とか社会に役立つ事が出来ないのかと考えたからです。週三回の透析を受けての仕事ですから、すぐには見つかりませんでした。

いろいろ探していた頃、以前の職業を活用できる仕事が見つかりました。障害者共同作業所と言って、主に木製品を製作する仕事です。精神障害の人達の社会復帰の場として創立した作業場です。

初めて出勤した当時は一日立っているのがやっとの状態で、それが一ヶ月程続きました。足や腰は非常に痛み疲労もはげしく、家に帰ると動けないこともありましたが妻からも「無理をしないように」と言われる事がたびたびありました。働き始めて三ヶ月になりましたが、今も仕事が終わると健康な時に比べ、二倍近くの疲労感があります。まだ創立して二年程の作業所ですが、なんとか発展させ、他の障害者の方にも生き甲斐の持てる場所にしていきたいと考えています。

透析というハンディを持っていても自分なりに生き甲斐を見つけ、社会に役立つ人間になるよう努力して行こうと考えています。透析者は健常者のように、長くは生

きられないかも知れませんが、健康者です。すから、健康者であった時よりも一日一日を大事に生きて行こうと考えています。

(透析歴一年、三十六才)

健康者との結婚

留萌市立総合病院

薄木理



私は、現在留萌市立病院で透析を週三回行っています。発病は昭和五十二年十月、そして十一月には透析を開始し、今年十一月で十年を迎えようとしています。四ヶ月の入院でした。退院後、私は市の体育指導員をしました。ですので、トレーニング教室に参加、

指導にあたってました。その中に妻が生徒として参加していました。何回か話をしたり、送って行くうちに、付き合ひ事になり、昭和五十四年一月に結婚しました。最初妻の両親は反対していたみたいです。私は透析患者、妻は健康者、どうしてもハンデがあります。私が妻の家へ行くと決まって、お父さんは外出二回目、三回目、なかなか会ってもらえません。連絡をしないで行くとおわてて外出しました。

でもようやく会ってもらえました。いざ会って話をしようと思ったら、こんどはこっちが戸惑いました。まず最初に透析の話、次に食事療法の話、次に日常生活の話の説明し、何とか理解してもらえました。

結婚後、妻は私の世話、商売をしていたので店の事、私の両親の世話、身重の妻は良くやってくれました。

でも子供は死産をしてしまい、妻にはつらい毎日だったと思います。でも妻は泣き言も言わず、毎日食事の本を見ながら、透析食の勉強でした。病院からの検査データを見ては、塩分、カリウム、カロリーはとか、初めての経験で大変だったと思います。でも食事の事で文句を言っても文句も言わず、病院から帰って調子が少し良くなっても何にも言わず良くやってくれます。私はこれだけでも妻に感謝しています。まして結婚を許してくれた妻

の両親にも感謝しています。

結婚して八年、子供はいませんが、しあわせな生活です。

健常者との結婚はたしかに私の場合はめぐまれていたと思います。透析患者で結婚を考えている皆さん、たしかにむずかしいかもしれませんが。たとえ反対に会っても二人の気持がしっかりしていれば、かならずわかってもらえる日が来ると思います。最後まで頑張っしてほしいと思います。

(透析歴十年、三十九才)

透析雑感

函館・仲野谷泌尿器科 釣 巻 卓 郎



昭和四十八年五月から透析を始めて十五年目に入っている。考えてみると非常に長い間生きられたものであると思う。当初主治医から「だいたい

三年位だなあ」などといわれたものだが、医療技術の進

歩に伴いコイルからファイバーへと変わり、その効率にも目を見張るものがある。始めの頃の透析よりも、水引きも尿素窒素、クレアチニンの引きも良くなっている。

食事制限も以前程でもなく、普通食に近いもので、ただ水分、塩分の抑制に気を付けなければならない。

この十五年の間で余病といえば、五十七年十一月に気管支肺炎で二十日間程入院治療した程度で、ほぼ安定しているようである。とは申せ、永年透析をやっているとその透析症候群で悩まされる事がしばしばである。一番ひどいのが両肩関節の石灰沈着による痛みである。年に一度は整形で注射を打ってもらっている。齢も齢であるがめっきり体も固くなり、朝ラジオ体操をしていても、十分曲げる事が出来ない程である。血液検査の結果では中性脂肪が高いといわれ、すこぶる歩く様にしているが余り効果が出ないようである。これから段々齢をとって行くとうとうなるであらうかと不安に思う事もある。

あと四年半で定年退職になる。勤める職のあった事は本当にこの病気の助けになっていると思う。透析終了後は体が多少だるくても、勤めに行かねばならないと思うと次第に体がシャンとして来るから不思議である。こんな事に助けられて生きながらえて来たのかもしれない。

毎日毎日、不安の中でも一番心の休まるのは針刺し終

了後でそれで、水でふくらんでいる時などはまた格別で、また今日も生きながらえる事が出来たかと、ほっとするものである。

色んな人のお蔭でどうやら透析を楽しく続けているが何といっても忘れる事の出来ないのは、医療費が無料になっっている事である。大変な費用が重むこの治療が無料ということ、本当に有がたい事だと思ふ。

これも一重に腎友会の運動の賜と道腎協、全腎協に感謝をしている次第である。これからも透析患者は増高の一途を辿っている。それに伴って医療費も重んで来る。当然財政上の締付けを考えねばならない。それを最小限に食い止めるのもこの会活動であると思ふ。患者一人一人が理解し、協力し合つて会活動を活発化しなければならぬと思ふ。その一助を負つて頑張つて行きたいと思ひます。

ともあれ、今日も生きることができて本当に良かったなあと思ふのである。(透析歴十五年、五十五才)

生命長らえて

函館・仲野谷泌尿器科 小 辻 雅 江



なく十八年の証です。

よく皆様から食事の管理がよいのでしょうとか、生活がきちっとしているのでしょうとか言われますが、透析に入つた当初は塩分水分に気を付けましたが、透析液や機器の改良、その他の進歩に依り今ではある程度、自由にやっております。透析も生活の一部にしてしまえば、苦にならず夫や子供の協力を得ながら家庭の主婦として過ごしております。

この頃もし私が健康な人間であつたら、今頃何をしているだらうなあと思ふ事が有ります。元来なまけ者の私

は、子供も大きくなって手が離れ、趣味と言っても本を
読むか、音楽を聞く位で、時間を持って余している何の取
り得の無い中年のおばさんだろうなと思います。

所が、透析の為に一日置きに通院するとすると、今日
の事は勿論、明日の事も考えて計画的に行動しなければ
なりません。又私は何でも気にする性格でしたが、透析
と永く付き合う様になってから、今日は駄目だったがこ
の次は良い事があるだろうとか、何か事が起きてても「時」
が解決してくれるだろうと思える様になりました。

しかし反面、よく考えないで諦めがよすぎたり、人
間的に冷たくなったのではないかと自分では感じており
ます。

一日置きに通う透析にも不安があったりいやな思いを
するのでは負担になります。幸い私の通う医院は気持ちの
明るい、朗らかな患者ばかりです。そういう事にも助け
られてここまで続いたのかもしれない。

透析に依って痛い思いや、苦しい思い又男の人であれ
ば悔しい思いも沢山あるのではないのでしょうか。その一
つ一つが自分を励まし、他人の痛みも分かちあえる大きな
人間になれたら最高だと思えます。

医学は目覚ましい勢いで進歩を遂げております。これ
から先どんな機械・薬が出来てくるか楽しみです。その

恩恵に浴するためにも元気で過ごしたいと思えます。
発病した時四才だった娘も、今は成人し、親の責任も
半分果しました。

後の半分は何時の事になるか分かりませんが、その時
のためにも私は透析「患」者ではなく、透析者で過ごせ
る様頑張りたいと思います。

(透析歴十八年、四十五才)

「ハワイ旅行」

函館・平田病院 岡田賢治



透析生活もまる三年に
なり、心身共になんとか
落ち着きを得たので、以
前より心に決めていたハ
ワイ旅行へ行きました。

友人と三ヶ月前より準備

にかかり、千歳発成田経由の五泊七日の自由行動ができ
る日程のものを選びました。一番の心配事は、海外での
私の透析のことや病院の手続きのことでしたが、保険会

社で、旅行保険に入り、パンフレットで海外の提携してある病院の住所と電話番号を見て、直接、コンタクトを取りつけ、透析の申し込み書を取りよせました。保険会社でも、相談にのって手続きをしてくれますが、これも一つの勉強と思い、自分でやりとりしました。

とまどいながら、なんとか準備もでき出発しましたが五泊七日の毎日は、一日一日が夢のようでした。五日間の行動スケジュールは、透析の日程にあわせ、現地で無理なく、ホテルにあるオブションを選び、立てました。

灼熱の太陽と青い海。ダイヤモンドヘッドがみえるワイキキビーチ・船上でのサンセットクルーズ・南十字星の下でのハワイアンフラダンスディナーショー・色とりどりの熱帯魚が泳ぐ澄み通る海の中の世界・シーサイドコースのカートンで回るゴルフ・セスナ機で回る隣島めぐり・世界最大のアラモナ・免税店でのショッピングなど毎日があっという間に過ぎ去りました。

体調の方も快調でした。ハワイは全く湿気がなく、多少多めの水分をとっても、体重もふえず、トロピカルな飲み物や、カリウムが心配ながらも南国の色々なフルーツも沢山いただきました。食事の方も円高ドル安のせい、物価が安く、豪華な食事もできました。

さて透析の方は、ホテルよりタクシーで二十分程の郊外

にあるクワキニ病院で受けました。費用は、一回二六〇ドル（／）で、朝九時より四時間で二回受けました。透析室は、総合病院で、別棟にあり、機械は三十台位ありました。ベッドは、リクライニング付きのイス式で、ふだん着のままを受けました。また、食事も出ませんし、テレビなどありません。ナースやテクニシャンの方々とは、言葉は、通じませんでした。治療システムや配りがしっかりしていて、安心して透析を受けることができました。帰りには、またの再会を約束してお別れました。

不安と楽しさの交錯した旅行体験でしたが、今では、これを機会にして、体を大切に、努力して、次の見果てぬ夢と計画を立てて、心ふくらんでおります。

（透析歴三年、三十八才）



透析十三年を振り返って

苫小牧千秋医院 本村 升平



私が腎臓を悪くして入院したのが昭和四十九年二月であった。当時は伊達市南黄金町に住んでおりました。昭和四十一年頃から血圧が高く、降圧剤を吞んでおりましたが、高血圧症状はなく、自分では毎日が元気な普通の生活をしておりました。職場から人間ドックに一度入ったときも、異常は認められなかったが、二度目の昭和四十八年秋に、伊達市日赤病院で腎臓脈硬化が発見されました。

しかし本人は至って健康であると思い込んでおりましたので、入院もせず仕事を続けておりましたが、翌年四十九年の正月、友人の家へ遊びに出掛け、帰り、バス停で十分程吹雪にさらされ、頭を濡らしたのが悪く風邪をこじらせて四日程寝込む状態でした。風邪が治って職場に戻り、約二週間位過ぎてから身体が猛烈に疲れ、虚脱

感と思考力減退におそわれ、何をやる意欲もなくなりました。

伊達市内の病院で尿検査の結果、蛋白がひどく出ており、すぐ専門病院に入院する様に勧められました。四十六年間無病息災で過ごして来たかと思いい込んでおりましたので、大きなショックを受けました。

それから私の斗病生活が始まりました。昭和四十九年当時は透析機器も今ほど整備されてはおらず、数も不足していましたので、社会復帰して再度、仕事に就く意欲のないものは透析治療がむづかしい状況でありました。透析治療が遅れて尿毒症状が回復しないままになられた方もかなりおられたのではないかと思います。

幸い私は五十三日の入院で腹膜灌流を一週間程、外シャントで三週間程透析をして内シャントと移ってまいりましたが、毎日毎日が身体の変調が来ないかと不安の連続であったと覚えております。

退院してからがまた、大変な毎日だめまいはする、筋肉が弱って腰痛が起き、一人で歩く事も出来ず、家族や身近な人の肩を借りて少しずつ歩いたものでした。しばらくして腰痛が治っても腹部に力がなく、腹が痛苦しい時期が約一ヶ月続いた後、大分身体も動かせる様になり職場に復帰しました。

昭和四十九年五月から勤務地が札幌になり、市内の透析病院には、バス、地下鉄、電車と乗り継いで五年間通院し、昭和五十一年の真夏の暑い盛りに車の免許を取得し昭和五十四年札幌から苫小牧へと転院し、透析を続ける内に、昭和五十六年に体内水分不足のため、大腸癒着で四十五日間入院しました。腹が時々痛む様になり、苦しくて夜も眠れない状態でありました。手術しなければ回復不可能かと思ひ、医師に相談したところ、点滴で治療可能と聞いて本当に安心しました。

退院後また、職場に戻り、昭和五十八年四月まで今までの仕事を続け、なんとか事故もなく五十五才の定年を迎え、現在に至っております。

私の場合親から受けた心臓が元気であった事と小さいのがよかったのではないかと思っております。

一年程前から透析中の低血圧症状や腰痛、胃の不調がなくなり、今現在では身体の調子が大変よくなって、気分もよく、現代医療技術はもちろん、全てのものに感謝の気持ちで懸命に体力増進に心掛けております。

(透析歴十三年、五十九才)

仲間との旅行

苫小牧千秋医院 池田 錠治



私は、五十二年の秋、透析開始で、ちょうど今年で透析歴十年です。

透析技術も始めと今ではだいぶ変わってきている。透析開始の頃はいかに長寿命をもたせるか、日夜命との戦いであったが、今日ではいかに、社会復帰をし、楽しい人生を過ごせるかに変わってきている。ありがたいことである。

私の通う千秋医院は、近隣の町から五十人ほどの患者が来ているが、それぞれ目的をもって楽しく毎日一杯生きていくようである。

ベッドが隣どうしの私も患者五人も一年前、患者だけの旅行を計画し、一ヶ月千円積み立て、今年六月十三十四日両日、函館への旅を実行した。函館では、知り合いの案内で日本一のおでんに舌つつみをうち、函館ホテルで夕食をとり、満腹感を味わった後は、函館山を登り、百万ドルの夜景を一望して宿についた。一泊朝食付き千五百円の低料金の宿であったが、管理人御夫妻の親切なサービスで、楽しい函館の一夜を過ごした。

よく十四日は、修道院をはじめ函館の名所を見学し、最後にごうかな昼食を函館でとり、帰路についた。飲んでも食べても気の合った透析仲間、じつに楽しい旅であった。

今度は、行った先で、透析仲間との交流も考えてみたい。ガンと戦いながらもモンブランを征服した方達のように、私達も大きな目的をもち、腎不全とともに強く生きたい。

最後に旅行中大変お世話いただきました、函館の皆さん本当に有難うございました。心より感謝致します。

この旅行に参加した五人の透析開始年、佐藤ミサオ五十五年、吉田啓子・五十一年、池田鏡治・五十二年、柴谷静子・六十年、藤吉雅俊・五十九年の皆さんです。

(透析歴十年、四十七才)

オートバイ、そして夢

帯広第一病院 塚本義彦



「オートバイ」、それは私が子供の頃からの大きな夢でした。

私がオートバイに出会ったのが五才で、私の祖父が乗っており、い

も後ろに乗せてもらっては、保育所や川へ釣りに連れて行ってもらいました。その頃はまだ「夢」には、ほど遠いものでしたが、小学校高学年の時に父の古いアルバムを見ている時に、父の若い頃の写真を見つけて私は「ドキッ」とさせられました。その写真にはバイクにまたがっている父の姿が写っていたのです。私はそれまで父がバイクに乗っていた事など一つも知りませんでした。その時に見た、父の写真が子供の私の目でも、とてもカッコよく、私はとても感激したのを覚えています。その頃から私もオートバイに乗りたいと思うようになったのです。中学生になって、初めて。一人でバイクに乗り、畑の

中を走り回って一日も早く免許が取れる十六才にならないかと、思い続けていました。そして高校生になり夢にまで見たバイクの免許が取れる様になりました。

しかし、学校の規則で、父の乗っていた様な大きなバイクには乗れず、原付免許を取る事しか出来ず、私の夢は十八才まで持つことになりました。

そして十八才になり、夢まであと一步の所で私は、透析という思ってもいない重荷を体にしょいこんでしまったのです。この時はもうバイクに乗れないと思い、私の夢も一事は絶望のどん底になりましたが、それから三年が経ち、体調も良くなり先生も、むりをしなれば良いと言ってくださり。私は思いきって学校へ試験を受けに行き、十年以上も夢にまで見ていた自動二輪の免許を、それも一発で合格でき、私は透析をしていても、やれば出来る、大変に自信が付き、現在、透析八年目になります。ヒマを見つけては函館、稚内、根室と、夢のツーリングをバイク仲間といっしょに走っています。

(透析歴八年、二十六才)

しゃも寅の水

釧路・林田クリニック 早坂 要



頃は農薬も少なく民家も遠い、いつも冷たくおいしかった。今で言うなら綱走、滝川、羊蹄山などという銘水であらう。就職して帯広、池田、釧路の水道水を飲むようになった。いずれも故郷の水とは比較にならない、いつも帰郷の度に思う存分味わっています。一度は味わって見たいと思っていたらわさの水「しゃも寅の水」に最近巡りあえた。我が家の水道水と、しゃも寅の湧き水とどちらがおいしいか比較してみることにした。コップを二つ並べ何回も飲み比べてみたが、答えを出すことはできなかった。水道水を造る技術も進歩したものと思う。

「しゃも寅の井戸は釧路市庁より西へ約五〇〇メートル程行った所にあつて衛生的に管理されている。年二回保険所が検査しており、市役所が管理している。担当者に聞いたところ昔は銘水であつたそうだが、今は銘水といいがたいとか。夕方に行つたのですが、次から次へとポリ容器、一・五リッター入るポリジューズサイダーの容器等を持参し、絶え間なく汲んで行く人の姿が印象的でした。

私には味の差はわかりませんが、汲んで行く方々はお茶を飲むと分かる。オンザロックにするとわかる等と話していました。

自転車であつて来た五人程の小学生は僕は毎日飲みに来るよ、おじさんあのね、この水飲むと美男子になるんだって？私も子供の教えてくれた言葉を願いつつポリ容器に一杯汲んで帰宅しました。貴方も話の種に一度試飲してみませんか。（透析歴十一年、五十四才）

頼みの親―道腎協

岩見沢市立病院 吉田謙治



私は四十五才で透析に入り、もう十四年経過しほした。最初は透析の事がよくわからないため、カリウムが高くなったり内臓からの出血があつたり、水分をとりすぎて心のう炎になつたりでいろいろな体験をしながら何度か入退院をくり返し、今回に至っております。仕事はこの三月で二十八年間勤めた教職でしたが、合併症の骨痛や、眼底出血、カルシウムの沈着による視力の衰えなどのために教壇をおりました。私は、武蔵野美大をでてから長い間中学校で美術を教えてきましたが、今でも学校での夢ばかりみえています。

病気の事をあれこれ考えても仕方ありませんから、早く骨痛を治してスケッチに歩き、心にゆとりをもった絵を描き続けていきたいと思っています。絵を描いている

時は、病気の事も忘れ、自分に浸れる唯一の時間でもあり、頭の老化を少しでも防げるのではないかと思っております。このような事が最近の私の心境です。

「どうじん」によりますと、私達をとりまく状況が報告されておりますが、防衛費は一%枠を突破しているのに、社会保障制度は、公的負担を後退させ、「受益者負担」の強化を図り、医療の分野にも本人負担の考えをおしつけてきており、国の責任でなすべき医療、福祉などの社会保障制度を後退させ、国民への犠牲の転化を図ろうとしています。

透析医療費についても、保険点数の切下げが行われてきており、更に月単位の一括した単位の設定方式が検討されてきており、この事によって治療の画一化、スタッフの削減などの合理化による質の低下などにつながる「件数払い」には組織をあげて反対しなければならぬと思います。腎移植の問題についても

腎移植の問題についても、移植数は横ばい状態、死体腎移植は減少傾向にあるといえます。これは、成功率の問題、脳死の問題等もあるでしょうが、最大の原因は提供者が少ないという点にあると言ってますから、一般の理解を求めるための多方面からの広報活動が是非必要だと思えます。

一人の力ではどうにもなりません。今こそ組織を固め活動を強化し、会員の力を合わせて運動をしなければならぬと思います。

道腎協も結成以来十周年を迎え、枝、葉も次第に増えまさに大樹になりつつある事は誠に頼もしい限りです。私達会員にとっては頼みの親ですから、今後益々内容充実されてのご発展を祈念致します。

(透析歴十四年、五十九才)

私の透析生活

―再移植の日を夢にみて

岩見沢市立病院 進藤繁幸

「病氣知らずの私と透析の出会い」

町職員として奉職三年目、昭和四十八年八月結婚を翌日に控えた夏の事、職務で住民検査を実施中、身体に絶体の自信を持っていた私は、上司に勧められるまま尿と血液の検査を行ったのです。結果は要精検、北大病院で検査を実施、腎臓病の知識のない私は、腎機能が低下しており、将来人工腎臓をしなければならないと言われ、体内に代用物を入れると思ひ込んでいました。検査後、

友人の紹介で入院し、療養に専念、人工腎臓の実体を知り、愕然ととり、将来設計が眼前でガタガタと崩れる思いでした。そして「運命の日」昭和五十年七月十八日。

「透析人生の始まり」

腎臓病発見後一年間通院、事前にシャントを作っていたので身体の良好なうちに透析に入るが透析食が食べられず、ヘマトは下がる一方、食事の臭をかぐと吐き気を催すしまつて苦勞する。

透析三ヶ月頃から移植に対する希望が強くなる。色々考え、両親に移植したいので腎臓をもらえないかと話したので。突然なことで当惑したようでしたが、応じてくれました。妻の級友が北里大学病院に勤務していることを知り、同大学の内田久則先生を紹介いただき、腎移植の実情を見聞させていただきました。

翌五十一年一月、両親と共に適合検査のため上京し、母の腎臓を移植することに決まりました。

三月中旬透析開始、八ヶ月目移植手術のため入院、再検査の後いよいよ手術、三月三十一日、目覚めたら正常な生活ができることを願う手術室に入る。術後の経過は良好で水を飲むことが苦痛になる程放尿するのです。しかし、一週間目の拒否反応を克服できず腎を摘出したしました。

再び、透析の始まり、血圧の上昇と腰痛に悩むことが何年か続きました。以前のようには食事はまずくヘマトは下がる。そこで好きな物、食べたい物をなんでも食べる事にしました。ヘマトが上がるのと透析食もそれほど苦にならなくなりました。透析患者としての私はけっして模範とならないが、これは言えると思います。食べなければ駄目です。

透析導入後、あきらめていた子供にも恵まれました。長男小学校三年、長女五才、この子供のために頑張らなくてはと思うこの頃です。

私は今、CAPD導入を考えております。日常透析されているので身体を正常に保持できるという事が最高と思うからです。欠点も見過ぎにはできないが自己管理で克服できると思っております。

仲間の皆さん移植のできる日まで元気で頑張りましょう。
(透析歴十二年、三十七才)

十年後を考える

札幌市立病院中 村 信 夫



私が透析のトの字も知らず、突然、主治医となった市立札幌病院の片岡先生（現副院長）から導入を宣告されてから八年目を迎えている。

その頃、道内の患者数はおよそ二、〇〇〇人程度だった。しかし、現在では、三、四〇〇人を越えようとしている。今後のわれわれの生命と生活を守る患者活動をすすめ、心がまえの一つとして、これから十年後の姿を予測し、それに対処すべき、ある姿を考えてみたい。

十年後と云えば、もう二十一世紀が目前に迫っている。千葉医大の小高先生の子測では、二十一世紀を迎える頃、患者数は全国で二〇万人を越えていると云われた。そうすると道内の患者数は五、〇〇〇人を越えているだろう。現在の施設数では絶対数が足りない。もちろん、医師、看護婦、等医師スタッフも不足してくる。どうしても国

公立の施設の充実を求めて、その日のために運動を進めなければならない。又、施設偏在解消もわれわれの進めなければならない問題である。

そして、小高先生は、腎臓病そのものからまる発生はさらに検尿制度が充実し、早期発見、早期治療で減少するが、現在もそうであるように糖尿病から（現在全患者の二〇％弱）の移行が増大すると云う。全国で二百万を越えると云う糖尿病患者がこれからの透析患者予備軍が控えていると云われる。

なんとしても、これから糖尿病との関係を研究、治療対策が望まれる。

では、透析の技術的な問題はどうなってくるのか、現在でも機械、技術、ダイヤライザー（人工腎臓）の種類、品質でも我が国は世界一の水準にあると云う。これは、我が国が移植が進まず、透析にたよらざるを得ない皮肉の結果のものであろう。（外国では移植をする迄の対症療法との考え方）

そして、透析の種類も患者に合わせて、多様化するであろうCAPDは二〇％位まで行くと思うし、家庭透析、IPD、小型化時間短縮も可能になると思う。

しかし、問題は長期透析、導入時期の老齢化により、老人病と関係、長期透析による合併症が更に大きな問題

となつてくると思う。今から十五年前まで、導入したら三年もてばいい、十年前は五年もてばいいと宣告されたわたしは、現在、約二十年は生命を保障された(但し、厳しい自己管理が前提)が、新たな問題がこの合併症である。

貧血は改善される朗報もあるが、未知の分野での種々の合併症の問題にはわれわれも医師に進んで協力し、これの解決に当るべきであらう。

次にわれわれが苦しい透析から離脱できる唯一の方法であり、最大の念願である移植の問題であるが、現在でも全国で年間五〇〇例あまり、道内では全移植例が百を越えたに過ぎない。先進国に比してあまりも少ない。

(米国やヨーロッパでは、年間六、〇〇〇〜七、〇〇〇例)そしてほとんど生体腎移植がわが国の現状である。外国では死体腎移植が主流で八〇%を占める。わが国と逆である。死体腎移植を増やす事が必要で、このため、徐々に整備されてきた腎バンク制度により現在全国で一愛と健康の贈り物―死後提供登録者は、十五万人を越えた。(米国では推定四〇〇万人が提供意志表示)道内は九、〇〇〇人台であるが、目標十万人に向つて更に国民運動としてわれわれがその必要性をうたえていく運動が必要である。

技術的な内容は確立しており、最近では免疫抑制剤としてシクロスポリンの発見で成功率が二〇%アップしており、道内でも登録者からの第一号移植者が実現する日も遠くないだろう。脳死の問題も、腎移植には直接関係ないが、他の臓器移植との関係で国民的コンセンサスを得る日も得ると思うし、時代のする勢であると思う。

腎バンクの充実と共に、移植体制づくり、移植病院、腎摘出病院、輸送体制、医療スタッフ育成の充実、一般医の認識(特に外科医)等更に米国のように移植コーディネーターの人材育成など更に移植をすすめる環境づくりが今後急がれる問題であらう。

最後にわれわれの生活を守る上で考えてみよう。国民医療費は年々増大し、年間一兆円、今年は総額十七兆円に達した。このまま推進すれば、十年後は二十六兆円に達する国家予算が来年が五七兆円だから今後ますます、医療費の占める割合は増大するし、特に高額医療を必要とするわれわれには真剣に考えなければならぬ。現在高度経済成長、安定成長と経済大国の道を行ってきたわが国であるが、円高の増く経済環境の中で果してこのまま貿易が良好に推移するのか、予測はむずかしい。国は、医療費をけずるため、地方自治体の負担を増し、

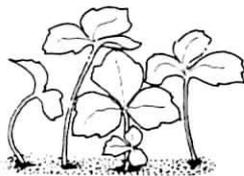
授益者負担を国民に強い、さらに、医療制度を改悪しよ
うと躍起になっている。薬の一部を保険からはずしたり、
入院食費を自己負担にしたり、今後大きな問題となるう
件数払い制度の導入などわれわれが常に国の動向に目を
むけなければならない問題が山積している。(国は、ア
メリカの医療制度の導入を計画しているし米国では厳し
い医療環境にあり医師が望む十分な治療が危ぶまれてい
る現状)

それでなくても、一度透析患者となれば就職、更に引き
続いて職場の確保がむずかしく退職を勧告されたり、
昇給、昇任ストップ、など厳しい経済環境(年収三〇〇
万以下がほとんど)にあるわれわれが自立し、教育費や
食費が増大するなかで、生活を守っていかなければなら
ない。

われわれは、同じ病いで苦しみをわかり合える仲間
である。われわれは、健康で働きたい。旅行もたまにはし
たい。水を腹いっぱい飲んでみたい。水々しいメロンを
食べてみたい。新鮮な生果菜をバリバリ食べてみたい。
たまにラーメンもすすりたい。音のでるオシッコをして
みたい。汗をかきほく飛んだり躍んだり全身でスポーツ
をしたい。

耐えて生きなければならぬ私たちは、厳しい現実を
みつめ、われわれは少数で弱者である事を認識し、力を
合わせて生きなければならぬ。われわれは声を出さな
くなった時われわれの活動は止まる。

一人一人の力は弱いものであるが、過去、生命と引き
かえに道腎協を支えてくれた先輩諸兄・姉に感謝しつつ、
これからの十年も道腎協の旗のもと、全国の同じ仲間と
共に、力を合せ、生きる喜びを感じる人生を歩んで行こ
う。私もその一人として。(透析歴七年二ヶ月、四十九才)



第五章

資料

— あゆみ

— 年度別役員名簿（運営委員会）

— 北海道の透析施設

あ ゆ み

	道腎協十年のあゆみ	国・全腎協・その他の動き
一九五四年 (昭二九年)		米ハーバード大で世界初の腎移植 東大で日本初の血液透析(臨床)
一九五六年 (昭三一年)		日本で初の腎移植
一九六七年 (昭四二年)		人工透析に健保適用
一九六八年 (昭四三年)	九月 (北大で道内初の腎移植成功)	
一九七一年 (昭四六年)		六月 六日 全腎協結成総会(東京) 一〇月 一八日 全腎協第一次国会請願実施
一九七二年 (昭四七年)		六月 二五日 全腎協第二回総会(東京) 一〇月 一日 身体障害者福祉法改正 ・腎機能障害者が内部障害者に含 まれ更生医療適用(十八才未満 育成医療)
一九七三年 (昭四八年)	一〇月 (北海道に於て重度身体障害者医 療給付制度適用)	一月 七日 全腎協第二次国会請願実施
		三月 二三日 「腎移植普及会設立」 四月 二五日 全腎協第三回総会(東京) 一〇月 一日 健康保険法改正さる ・家族七割給付 ・高額療養費制度新設

		<p>一二月 七日 全腎協第三次国会請願実施</p>
<p>一九七四年 (昭四九年)</p>		<p>四月 一日 小・中・高生の隔年検尿実施 血液代金の無料化 腎機能障害者にも身体障害者雇用促進法を適用 全腎協第四回総会(神戸) 慢性腎炎難病に指定さる 全腎協第四次国会請願実施</p>
<p>一九七五年 (昭五〇年)</p>		<p>五月 一八日 全腎協第五回総会(岐阜) 五月 四日 全腎協第五次国会請願実施</p>
<p>一九七六年 (昭五一年)</p>		<p>五月 一六日 全腎協第六回総会(東京)</p>
<p>一九七七年 (昭五二年)</p>	<p>三月 六日 道腎協結成準備会 三月 一日 腎移植の映画と講演(札幌医師会館) 一月 一日 北海道腎臓病患者連絡協議会(道腎協)結成 会長 細川哲夫氏(全道七ブロック) (「北海道腎移植をすすめる会」発足→北大泌尿器科) 道腎協北海道難病連に加盟</p>	<p>二月 一八日 全腎協第六次国会請願 二月 二日 日本で初めて腎移植女性出産 四月 一日 一才六ヶ月児の検尿実施 五月 八日 全腎協第七回総会(京都)</p>
<p>一九七八年 (昭五三年)</p>	<p>三月 五日 道腎協会議(札幌) 三月 四日 「どうじん」創刊号発行 三月 五日 全道一斉街頭署名活動 六月 一八日 道腎協第一回総会(札幌) 七月 一〇日 道内透析患者の実体調査 一月 七日 道に道東三地区より通院交通費助成の請願書</p>	<p>一月 三二日 全腎協第七次国会請願実施 二月 一日 医療費改訂(透析医療費実質的引下げ) ・夜間透析加算・腎移植健保適用 ・透析に時間制導入 ・給食費の保険適用 四月 一日 家庭婦人の検尿体制発足</p>

<p>一九七九年 (昭五四年)</p>	<p>六月二七日 道腎協第二回総会(札幌) ・腎移植に関する講演会 (通院交通費知事査定で削られる) 「どうじん」二号発行 通院交通費で三者会談(全道労協・ 難病連・道腎協) 通院交通費で記者クラブ会見 通院交通費で全道決起集会 通院交通費で要望書提出</p>	<p>四月二日 「ゆたかな医療と福祉をめざす全国 患者・家族集会」開催 五月二四日 全腎協第八回総会(名古屋)</p>
<p>一九八〇年 (昭五五年)</p>	<p>四月一日 (道が腎機能障害者通院交通費補 助事業実施) 健保改悪阻止ハガキ行動 「北海道透析白書」完成 六月二五日 道腎協第三回総会(札幌) 会長 岩崎薫氏就任 九月一四日 腎移植プロジェクト会議開催 「どうじん」三号発行 二月八日 道腎協事務局長 留目英生氏死去</p>	<p>二月五日 全腎協第九次国会請願実施 五月二八日 全腎協第十回総会(福岡)</p>
<p>一九八一年 (昭五六年)</p>	<p>五月二三日 道腎協第四回総会(旭川) 五月二四日 「腎不全を考える集い」旭川大会 開催 一月八日 第一回全国一斉腎提供登録街頭キ ャンペーン実施</p>	<p>一月一日 国際障害者年スタート 二月三日 全腎協第十次国会請願 六月一日 透析医療費再引下げ 六月七日 ・腎提供者にも健保適用 全腎協第十一回総会(東京) 七月七日 第二臨調第一次答申「医療・福祉 の抑制策」打ち出す 一月八日 第一回全国一斉腎提供登録街頭キ ャンペーン(全腎協)</p>

<p>一九八二年 (昭五七年)</p>	<p>五月二十九日 道腎協第五回総会(札幌) 五月三〇日 道腎協五周年記念講演 八月一日 「どうじん」四号発行 九月一日 第二回全国一斉腎提供登録街頭キ ャンペーン (道内初のUS腎移植成功) 道に「腎疾患対策委員会」の設置 を要望 道議会請願六項目(一、二、三、四、名 (初の道内透析者より角膜移植)</p>	<p>二月二日 全腎協第十一次国会請願実施 五月十六日 全腎協第十二回総会(大阪) 八月五日 国民年金法改正案成立 八月一〇日 老人保健法成立(昭五八年二月一 日実施) 九月一日 第二回全国一斉腎提供登録街頭キ ャンペーン 全腎協厚生省に医療費改正で七項 目を要求</p>
<p>一九八三年 (昭五八年)</p>	<p>一月一日 「どうじん」第五号発行 一月三〇日 道腎協会員一千名を超える 六月一日 「どうじん」第六号発行 六月七日 道に腎移植センターの設置を要望 七月三日 道腎協第六回総会(札幌) 九月一日 第三回全国一斉腎提供登録街頭キ ャンペーン 自民党道支部に腎移植センター設 置を要望 東北ブロック会議に初参加 「どうじん」第七号発行 一月一日 健保改悪にハガキで抗議運動</p>	<p>二月一日 老人保健法スタート 医療費改訂で透析医療費再引き下 げ 二月二日 全腎協第十二次国会請願実施 二月三日 CAPD液薬価基準収載 五月一日 神奈川県腎友会退会を通告 五月五日 全腎協第一三回総会(宮城) 九月一日 第三回全国一斉腎提供登録街頭キ ャンペーン 厚生省「年金制度改革案」を諮問 連絡会「健保改悪に反対する全国 決起集会」</p>
<p>一九八四年 (昭五九年)</p>	<p>三月二十五日 「どうじん」第八号発行 五月二十八日 (「北海道腎バンク発足」) 六月二〇日 道腎協第七回総会(札幌) 七月二〇日 「どうじん」第九号発行 七月 腎提供拡大広報誌掲載活動 道に重度身体障害者医療給付制度 (障)の改正要望 七月二四日 腎提供登録者拡大全道一周キャラ</p>	<p>二月二日 全腎協第十三次国会請願実施 三月一日 医療費改訂で透析医療費再び引き 下げ ・CAPD在宅でも健保適用 全腎協災害対策マニュアル「どう する災害時」作成 五月二〇日 全腎協第十四回総会(静岡) 七月三〇日 「ゆたかな・患者、家族」連</p>

	<p>（パン隊出発（二、〇〇〇キロ走破） 第四回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン）</p> <p>九月一六日 道、人工透析と血友病の限度額一万円（障）を適用 （北海道腎移植センター、市立札幌病院に開設）</p> <p>一〇月 一日 腎臓病に関するシンポジウム開催</p> <p>一一月 一日 「どうじん」第十号発行</p> <p>一二月二〇日</p>	<p>絡会「健保改悪反対」で社会労働委員会に要請 健康保険法成立（一〇月一日実施） ・健保本人の給付率引き下げ（十割→八割） ・高額療養費の中の長期高額疾病に人工透析、血友病が指定され限度額一万円となる</p> <p>八月 七日</p> <p>九月一六日 第四回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p> <p>一〇月 一日 身体障害者福祉法改正</p> <p>一一月 六日 警察庁に「腎バンク登録者拡大について」要請</p>
<p>一九八五年 （昭六〇年）</p>	<p>五月 一日 「どうじん」第十一号発行</p> <p>五月二五日 専門委員会制発足</p> <p>五月二六日 道腎協第八回総会（札幌）</p> <p>六月一六日 全道一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p> <p>九月二二日 第五回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p> <p>一〇月二七日 初の腎疾患総合対策シンポジウム開催</p> <p>一一月 一日 道内患者の実態調査実施</p>	<p>二月 七日 全腎協第十四回国会請願実施</p> <p>三月 一日 医療費改訂（透析医療費引き下げ） ・腎関係の診察報酬点数時間区分二段階に</p> <p>三月二二日 「ゆたかな・・・患者、家族」連絡会、医療と生活の保障を求め国会請願</p> <p>四月一五日 全腎協マニュアル「なぜ今腎疾患総合対策なのか」作成</p> <p>四月二四日 「国民年金」「厚生年金」法改正（六一年・四月実施）</p> <p>五月一九日 全腎協第一五四回総会（岡山）</p> <p>六月二一日 小児腎炎の研究班発足</p> <p>七月 一日 厚生年金、障害年金の事後重症制度五年制限を廃止</p> <p>九月二二日 第五回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p>

	<p>一九八六年 (昭六一年)</p> <p>二月二五日 医療関係者との懇談会(札幌) 三月一日 「どうじん」第十二号発行 三月 知事候補に公開質問状 五月一日 「どうじん」第十三号発行 五月二五日 道腎協第九回総会(札幌) 六月二五日 全道一斉腎提供登録街頭キャンペーン 八月一〇日 「どうじん」第十四号発行 一〇月五日 第六回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p>	<p>一二月 六日 厚生省「脳死に関する研究班」判定基準をまとめる</p> <p>二月 六日 全腎協第十五次国会請願実施 二月二八日 「ゆたかな・患者・家族」連絡会、全日空と道路公団に身障者割引要請 四月 一日 医療費改訂(透析点数引き下げ)CAPD加温器給付 五月一六日 新年金法施行(基礎年金制導入) 六月 一日 全腎協第十六回総会(東京) 七月一七日 老人医療一部負担金上がる 児童扶養手当問題で厚生省に全腎協申し入れ 厚生省毎年十月を腎移植推進月間として施行 一〇月 五日 第六回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p>
<p>一九八七年 (昭六二年)</p>	<p>三月一〇日 「どうじん」第十五号発行(道内患者実態調査報告集) 三月三一日 道腎協会員千八百名を超える 五月一〇日 「どうじん」第十六号発行 五月三一日 道腎協第十回総会(札幌) 一〇月 四日 第七回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン 一一月一〇日 「どうじん」第十七号発行</p>	<p>二月一〇日 全腎協第十六次国会請願実施 三月 十五日周年事業として「実態調査報告書」「福祉制度のしおり」(改訂版)発行 五月二四日 全腎協第十七回総会(新潟) 五月二七日 臨床工学士法成立 七月 「献腎」テレフォンカード製作販売 九月 二日 運賃割引で全腎協国会請願 一〇月 四日 第七回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p>

昭和 52 年度役員名簿

役 職 名	氏 名	在 籍
会 長	細 川 哲 夫	札 幌
副 会 長	五 百 島 制 也	室 蘭
事 務 局 長	廣 岡 達 矢	苫 小 牧
運 営 委 員	阿 部 隆	札 幌
	古 賀 貞 二	札 幌
	鈴 木 啓 三	札 幌
	宮 嶋 真 理 子	札 幌
	赤 松 明	札 幌
	菊 地 憲 二	室 蘭
	増 田 康 彦	苫 小 牧

昭和 54 年度 役員名簿

役 職 名	氏 名	在 籍
会 長	細 川 哲 男	札 幌
副 会 長	廣 岡 達 夫	苫 小 牧
	堀 口 功	室 蘭
事 務 局 長	留 目 英 生	札 幌
次 長	福 士 博 明	札 幌
運 営 役 員	阿 部 隆	札 幌
	鈴 木 啓 三	札 幌
	宮 嶋 真 理 子	札 幌
	岩 崎 薫	札 幌
	菊 地 憲 二	室 蘭
	渡 辺 俊 雄	苫 小 牧

昭和 55 年度 役員 名簿

役 職 名	氏 名	在 籍
会 長	岩 崎 薫	札 幌
副 会 長	廣 岡 達 夫	苫 小 牧
	田 中 繁 雄	室 蘭
事 務 局 長	留 目 英 生	札 幌
	福 士 博 明	札 幌
運 営 委 員	阿 部 隆	札 幌
	鈴 木 啓 三	札 幌
	宮 嶋 真 理 子	札 幌
	坂 上 敏 弘	札 幌
	宮 本 好 和	札 幌
	津 田 嘉 郎	小 樽
	堀 口 功	室 蘭
	渡 部 俊 雄	苫 小 牧
	松 山 近 義	旭 川

昭和 56 年度 役員 名簿

役 職 名	氏 名	在 籍
会 長	岩 崎 薫	札 幌 幌
副 会 長	廣 岡 達 夫	苫 小 牧
事 務 局 長	堀 口 功	室 蘭
事 務 局 次 長	阿 部 隆	札 幌
運 営 役 員	福 士 博 明	札 幌
	留 目 恭 子	札 幌
	宮 嶋 真 理 子	札 幌
	宮 本 好 和	旭 川
	松 山 近 義	札 幌
	鈴 木 啓 三	札 幌
	坂 上 敏 弘	札 幌
	津 田 嘉 郎	小 樽
	鈴 木 修 一	苫 小 牧
	上 田 弘	釧 路

昭和 57 年度 役員 名簿

役 職 名	氏 名	在 籍
会 長	岩 崎 薫	札 幌
副 会 長	廣 岡 達 夫	苫 小 牧
	上 田 弘	釧 路
	井 上 茂	北 見
	鈴 木 啓 三	札 幌
	松 山 近 義	旭 川
	石 原 三 夫	函 館
	堀 口 功 隆	室 蘭
事 務 局 長	阿 部 隆 和	札 幌
次 長 兼 会 計 員	宮 本 好 和	札 幌
	中 村 信 夫	札 幌
	鈴 木 修 一	苫 小 牧
	村 本 徳 雄	札 幌

昭和 58 年度 役員 名簿

役 職 名	氏 名	在 籍
会 長	岩 崎 薫	札 幌
副 会 長	廣 岡 達 夫	苫 小 牧
	上 田 弘	釧 路
	井 上 茂	北 見
	鈴 木 啓 三	札 幌
	松 山 近 義	旭 川
	石 原 三 夫	函 館
事 務 局 長	阿 部 隆	札 幌
委 員	宮 本 好 和	札 幌
	中 村 信 夫	札 幌
	村 本 徳 雄	札 幌
	飯 田 興 治	小 樽
	佐 藤 昇	室 蘭
	庄 司 勝 利	札 幌

昭和 59 年度 役員名簿

役 職 名	氏 名	在 籍
会 長	岩 崎 薫	札 幌
副 会 長	廣 岡 達 夫	苫 小 牧
	上 田 弘	釧 路
	鈴 木 啓 三	札 幌
	松 山 近 義	旭 川
	石 原 三 夫	函 館
	津 田 嘉 郎	小 樽
事 務 局 長	中 村 信 夫	札 幌
委 員	宮 本 好 和	札 幌
	村 本 徳 雄	札 幌
	飯 田 興 治	小 樽
	庄 司 勝 利	札 幌
	佐 藤 昇	室 蘭

昭和 60 年度 役員 名簿

役 職 名	氏 名	在 籍
会 長	岩 崎 薫	札 幌
副 会 長	廣 岡 達 夫	小 牧
	上 田 弘	釧 路
	鈴 木 啓 三	札 幌
	松 山 近 義	旭 川
	津 田 嘉 郎	小 樽
事 務 局 長	中 村 信 夫	札 幌
委 員	宮 本 好 和 子	札 幌
	福 原 真 子	札 幌
	猪 村 和 子	札 幌
	飯 田 興 治	小 樽
	佐 藤 昇	室 蘭
	中 野 龍 一	道 南
	川 窪 健 次	北 見

昭和 61 年度 役員 名簿

役 職 名	氏 名	在 籍
相 談 役 会 長 副 会 長	細 川 哲 男	札 幌
	岩 崎 薫	札 幌
	広 岡 達 夫	苫 小 牧
	上 田 弘	釧 路
	鈴 木 啓 三	札 幌
	松 山 近 義	旭 川
	津 田 嘉 郎	小 樽
	中 村 信 夫	札 幌
	宮 本 好 和	札 幌
	芳 賀 務 子	札 幌
事 務 局 員 委 員	猪 村 和 子	札 幌
	渡 辺 自 立	札 幌
	佐 藤 昇	小 室
	中 野 龍 一	室 蘭
	川 窪 健 次	道 南
		北 見

昭和 62 年度 役員 名簿

役 職 名	氏 名	在 籍
会 長	岩 崎 薫	札 幌
副 会 長	広 岡 達 夫	苫 小 牧
	上 田 弘	釧 路
	鈴 木 啓 三 郎	札 幌
	津 田 嘉 郎	小 樽
	中 野 龍 一 夫	道 南
事 務 局 長	中 村 信 夫	札 幌
運 営 委 員	宮 本 好 和	札 幌
	芳 賀 務 子	札 幌
	猪 村 和 子	札 幌
	渡 辺 自 立	小 樽
	佐 藤 昇 次	室 蘭
	川 窪 健 一	北 見
	柳 本	旭 川

北海道の透析施設

病 院 名	住 所	電話番号	医 師
い の け 医 院	札幌市中央区南 9 条西 6 丁目	(011) 511-5003	猪野毛健男
医療法人社団延山会 北成病院	札幌市北区新川 744 番地 2	(011) 764-3021	太田 俊郎
医療法人社団 開成病院	札幌市北区北 33 条西 6 丁目	(011) 757-2201	田中 信義
医療法人社団 朝日会新札幌 サンプラザ病院	札幌市白石区厚別中央 2-4	(011) 892-1556	金 有世
医療法人三樹会病院	札幌市白石区東札幌 2 条 3 丁目 6-8	(011) 824-3131	丹田 均
医療法人社団 北海道恵愛会 南一条病院	札幌市中央区南一条西 13 丁目 317-1	(011) 271-3711	近藤 正道
う え と 医 院	札幌市西区前田 6 条 15 丁目	(011) 682-3355	上戸 敏男
河口内科クリニック	札幌市豊平区平岸 2 条 14 丁目 今崎ビル 2 F	(011) 821-0500	河口 道夫
幌 北 医 院	札幌市北区北 20 条西 8 丁目	(011) 716-5411	橋本 敏
光星泌尿器科医院	札幌市東区北 12 条東 7 丁目 メディカルセンター光星 3 F	(011) 711-0158	上戸 文彦
幌 南 医 院	札幌市豊平区平岸 1 条 6 丁目	(011) 822-1811	奥野 利幸
国立診療所 西札幌病院	札幌市西区山の手 5 条 7 丁目 1 番 1 号	(011) 611-8111	菅原 宏見
北三条内科 クリニック	札幌市中央区北 3 条西 20 丁目	(011) 644-7877	亀ヶ森伸一
清田泌尿器科	札幌市豊平区清田 1 条 4 丁目 5 番 30 号 清田総合医療センタービル	(011) 881-5053	大野 一典
佐 藤 医 院	札幌市東区北 19 条東 7 丁目	(011) 741-8050	佐藤 業連
札幌北クリニック	札幌市北区北 18 条西 2 丁目	(011) 747-7157	今 忠正
札幌中央病院	札幌市中央区南 9 条西 10 丁目	(011) 513-0111	長谷川恒彦

病 院 名	住 所	電話番号	医 師
札幌東クリニック	札幌市白石区南郷通1丁目 北2-25	(011) 863-2131	江端 範名
札幌北楡病院	札幌市白石区東札幌6条6丁目 5番1号	(011) 865-0111	川村 明夫
市立札幌病院 腎センター内科 腎移植科	札幌市中央区北1条西9丁目	(011) 261-2281	片岡 是充 平野 哲夫
仁愛会外科 クリニック	札幌市中央区南1条西9丁目 6-9	(011) 251-7338	松尾 喜徳
田島クリニック	札幌市中央区北1西21丁目 フジタビル5F	(011) 643-2553	田島 邦好
戸沢医院	札幌市中央区南19条西8丁目	(011) 512-1216	戸澤 修平
中野医院	札幌市北区北10条西4丁目	(011) 747-1088	中野 幸雄
泌尿器科石川医院	札幌市西区西野4条2丁目 1番20号	(011) 661-1100	石川登喜治
北海道勤労者医療 協会中央病院	札幌市東区伏古10条2丁目 15-1	(011) 782-9111	沢崎 孝司
北海道健康保険 北辰病院	札幌市中央区北1条西4丁目	(011) 241-1161	戸沢 修平
北海道泌尿器科 記念病院	札幌市東区北40条東1丁目	(011) 711-1717	松野 正
広田医院	札幌市豊平区美園7条6丁目	(011) 811-8188	広田 紀昭
宮の森脳神経外科病院 透析室	札幌市中央区宮の森3条7丁目 5番25号	(011) 8 641-6641	堀口 峯生
陸上自衛隊 札幌地区病院	札幌市豊平区平岸1条12丁目 1番32号	(011) 831-0161	田村 二郎
渡井医院	札幌市中央区南14条西15丁目	(011) 551-5023	渡井 幾男
宮岸内科皮膚科 泌尿器科	札幌市東区北48条東8丁目	(011) 753-2101	宮岸 武弘
溪和会江別病院	江別市野幌代々木町81番地6	(011) 382-1111	品田 佳秀
市立函館病院	函館市弥生町2番33号	(0138) 23-8651	須藤 芳徳
寺島泌尿器科医院	函館市宮前町30番17号	(0138) 45-7366	寺島 光行
鳥居泌尿器科医院	函館市美原2丁目13-8 メデイカルビル	(0138) 46-5657	鳥居 恒明

病 院 名	住 所	電話番号	医 師
仲野谷泌尿器科医院	函館市富岡町1丁目1番19号	(0138) 41-8228	仲野谷祐介
平 田 病 院 (更生医療指定)	函館市本通2丁目39-24	(0138) 55-5677	平田 輝夫
北海道社会事業 協会函館病院	函館市堀川町4-5	(0138) 53-5511	熊谷 章
渡辺泌尿器科医院	函館市深堀町36番9号	(0138) 55-1185	渡辺 昌美
渡 辺 病 院	函館市湯川町2-32-1	(0138) 59-2221	渡辺 博
5の外科クリニック	小樽市住吉町7-5	(0134) 33-6586	宇野 弘昌
市立小樽第二病院	小樽市長橋3丁目11番1号	(0134) 33-4151	村上嶽四郎
北海道済生会 小樽北生病院	小樽市梅ヶ枝町8-18	(0134) 25-4321	門野 雅夫
輪生会朝里病院	小樽市新光1-7-10	(0134) 54-6542	山田 弘
石田皮膚泌尿器科 病院	旭川市1条10丁目右10号	(0166) 26-6411	石田 初一
国立療養所道北病院	旭川市花咲町7丁目	(0166) 51-3161	佐久間 進
市立旭川病院 泌尿器科	旭川市金星町1丁目	(0166) 24-3181	大塚 晃
総合病院 旭川赤十字病院	旭川市曙1条1丁目	(0166) 22-8111	宮崎 滋
だてクリニック	旭川市曙1条5丁目	(0166) 22-1515	伊達 敏行
増田クリニック	旭川市1条通6丁目右5号	(0166) 22-9600	増田 一雄
渡部外科・ 胃腸科医院	旭川市大町2条4丁目 21番地308	(0166) 51-7958	渡部 登
名寄三愛病院	名寄市西1条北5丁目	(01654) 3-3911	長尾 恒
医療法人社団 日鋼記念病院 腎センター	室蘭市新富町1丁目5番13号	(0143) 24-1331	西村 昭男
沢山クリニック	室蘭市高砂町2丁目1番7号	(0143) 45-3971	沢山 豊
新日本製鉄(株) 室蘭製鉄所病院	室蘭市知利別町1-45	(0143) 44-4650	古賀健一郎

病 院 名	住 所	電話番号	医 師
医療法人 扶恵会 路中央病院	釧路市黒金町8丁目3番地	(0154) 31-2111	串崎 俊方
市立 路総合病院	釧路市春湖台1の12	(0154) 41-6121	伊藤 勇市
総合病院 路赤十字病院	釧路市新栄町21番14号	(0154) 22-7171	三輪 映
道東勤医協 路協立病院	釧路市治水町3番14号	(0154) 24-6811	嶋本 義雄
林田クリニック	釧路市新富町1の7	(0154) 24-7173	林田 紀和
帯広クリニック	帯広市西23条南1丁目	(0155) 37-5588	中尾 昭洋
帯広厚生病院	帯広市西6条南8丁目	(0155) 24-4161	大野 克幸
すとう泌尿器科	帯広市西2条南2丁目10	(0155) 27-2301	須藤 進
(財) 北海道医療団 帯広第一病院	帯広市西3条南8丁目	(0155) 25-3121	守屋 至
(財) 北海道医療団 帯広西病院	帯広市西23条南1丁目129番地	(0155) 37-3330	清水 章
北海道社会事業 協会帯広病院	帯広市東4条南12丁目	(0155) 22-6600	深井 隆夫
石 田 医 院	北見市北5条西1丁目	(0157) 23-3225	石田 卓也
千葉循環呼吸 クリニック	北見市公園町139番地4	(0157) 23-3111	千葉 勉夫
北海道立北見病院	北見市高栄西町1-1-2	(0157) 24-6261	夷岡 迪彦
小 林 病 院	北見市北3条西4丁目	(0157) 23-5157	小林 達男
夕張市立総合病院	夕張市社光6番地	(01235) 2-3020	宮下 孝
岩見沢市立総合病院 外科	岩見沢市9条西7丁目2番地	(内45) (0126) 22-1650	大平 整爾
七条クリニック	岩見沢市7条西8丁目	(0126) 25-2727	松村 満隆
留萌市立総合病院	留萌市寿町1丁目19番地	(01644) 2-1500	葛西津世志
王子総合病院	苫小牧市表町4丁目2-22	(0144) 32-8111	江夏 朝松
千 秋 医 院	苫小牧市表町5丁目2-3	(0144) 32-3431	千秋 肇

病 院 名	住 所	電話番号	医 師
寺田泌尿器科医院	苫小牧市木場町2丁目8番1号	(0144) 33-3855	寺田 雅生
苫小牧市立総合病院	苫小牧市本幸町1丁目2番21号	(0144) 33-3131	阿部 弥理
市立稚内病院	稚内市中央4丁目11番6号	(0162) 23-2771	石崎 忠文
市立美唄病院	美唄市西2条北1丁目	(01266) 3-4171	永田 剛昭
市立赤平総合病院	赤平市本町3丁目2番地	(01253) 2-3211	渡辺 邦彦
市立士別総合病院	士別市東5条7丁目20番地	(01652) 3-2166	上村 友也
市立三笠総合病院 腎臓病センター	三笠市宮本町489	(01267) 2-3131	千葉 栄市
市立根室病院	根室市有磯町1-2	(01532) 4-3201	金子 宏
千歳腎センター 井川医院	千歳市新富1丁目7-20	(0123) 22-0111	井川 欣市
腎友会 滝川クリニック	滝川市有明町2丁目4-45	(0125) 24-2125	菅原剛太郎
滝川市立病院	滝川市大町2丁目2番34号	(0125) 22-4311	小杉 雅郎
恵庭第一病院	恵庭市福住町1丁目6-6	(01233) 4-1155	中西 浩二
伊達赤十字病院	伊達市末永町81番地	(0142) 23-2211	垂水 泰
町立八雲病院	山越郡八雲町東雲町50	(01376) 3-2185	佐藤 重直
俱知安厚生病院	虻田郡俱知安町北4東1	(0136) 22-1141	鈴木亜喜弘
田中内科医院	余市町浜中町205-3	(0135) 22-6125	田中 一志
曾我病院	紋別町上湧別町字中湧別	(01586) 2-2001	渋谷 努
洞爺協会病院	虻田郡虻田町温泉町144番地	(01427) 5-2331	今村 文元
総合病院浦河 赤十字病院	浦河郡浦河町東町ちのみ 1丁目2番1号	(01462) 2-5111	橋本 史生
浅井医院	上川郡新得町本通南3丁目	(01566) 4-5304	浅井 秀雄
町立厚岸病院	厚岸郡厚岸町字住の江町 3番地の1	(0153) 52-3145	崔 圭亨

10周年記念誌協賛金

。北海道透析医学会

。病、医院、スタッフ関係

樹 輪 の 会（札幌三樹会病院）

中野医院患者、職員有志一同（札幌中野医院）

千秋医院 院長 千秋 肇

職員 一同

阿武 テイ子（千秋医院看護婦）

佐藤 繁 芳（千秋医院テクニシャン）

小野 幸 子（千秋医院看護婦）

。患者会員

札幌腎臓病患者友の会関係

札幌北楯病院

河村 南行 馬場 月子 戸松真紀子 西 リセ 辻 博 川上 啓光 工藤 清雄

芝垣 清 見越 カヨ 北村ハナ子 小西 昭子 新見サヨ子 近藤 律子 須藤富美子

渡井 医院

白木 茂男 田中 祥三 菊田 昭郎

北三条内科クリニック

宮本 好和 中川 重幸

三樹会 病院

首藤 達彦 雨宮 英子

徳洲会病院 藤次克夫
札幌中央病院

武埴金之助 庄司勝利 ツカサ 機材 猪村和子
東クリニック

照井幸子 岡根徳政 国岡光雄
田島クリニック

横井正 大竹香 姫路留利子
北クリニック

伊藤豊秋 杉山薫 中西隆俊 鈴木啓三 股村健一 竹田信 権平裕二 河村禮子
小寺静江 玉置慎一 石田久美 西野聡子 西出澄子 福島美奈子 山岡裕子 久原幸子

小林清美 金丸洋子 鍋沢明美 田島エツ子 矢野凱三 石川みちこ
佐藤医院 永田和之

中野医院 小山保順 平野貞吉
光星泌尿器科

西田富美子 石井典子 三上留美子 新野寿美子 花崎啓子 佐藤真理子 清水久子 石田尾彩子
堀井和彦 伊藤貞一 佐藤功 高橋理視

。留萌地方水無人腎友会関係
留萌地方水無人腎友会

。道南腎臓病患者連絡協議会関係
道南腎臓病患者連絡協議会

。苫小牧つくし会関係

千秋医院 山本内科医院 院長 山本一雄（患者家族） 菊地鉄工所 菊地秀明 岡崎博之 大塚弘

萱野忠義（非会員） 玉根靖子 廣岡達夫 小林勝市 前田富夫 新井ナオ 岡 英子

齊藤美恵 佐藤ミサオ 柴谷静子 杉原ハナエ 篠原百合子 関口悦子 千葉志津子

武田 幸子 内藤 和子 松浦 範子 池田 錠治 小椋トヨ子 川村 清 深根 フミ

小路 勝洋 本村 升平 吉田 高德 伊藤 粹裕 宮川スズ子 増田 康彦

苦小牧市立総合病院 藤谷 祥子 加賀とみ 小林 孝司

寺田泌尿器科医院 吉田 啓子 佐藤 千愛 加賀美 孝子 佐々木 あや子

藤川 了子

千歳腎センター井川医院 江島 寛 枇 沢 隆 弘

。釧路地方腎友会関係

釧路地方腎友会

。岩見沢腎友会関係

岩見沢腎友会

透析に...

使いやすさを考えた
豊富な種類——規格



血液凝固阻止剤

ノボ・ヘパリン

日局ヘパリンナトリウム注射液（腸粘膜）
ヘパリンカルシウム注射液（腸粘膜）

薬価基準収載

ノボヘパリン注1000
(1,000単位/mℓ) 5mℓ×5

5mℓ×20
10mℓ×10
20mℓ×10
50mℓ×5
100mℓ×5

ノボ・ヘパリンカルシウム注射液
(1,000単位/mℓ) 10mℓ×10

20mℓ×10
50mℓ×5
100mℓ×5

ノボ・ヘパリン注5000
(5,000単位/mℓ) 5mℓ

ノボ・ヘパリン注25000
(25,000単位/mℓ) 2mℓ

ノボ・ヘパリンPF注
(1,000単位/mℓ) 10mℓ×5

注射用ヘパニン 10,000単位×10
(ヘパリンナトリウム純末)

中和剤としてノボ・硫酸プロタミン注があります。

●効能・効果、用法・用量、使用上の注意などは
添付文書をご参照ください。

輸入・発売元 **小玉株式会社** 東京都千代田区神田佐久間町3-2
製造元 ノボインダストリーA/S, デンマーク

アリコの

「OK保険」 弱者者終身保険

今までの生命保険にご契約できない方のための新しい保険—今、アリコから登場。

透析患者のための保険!!

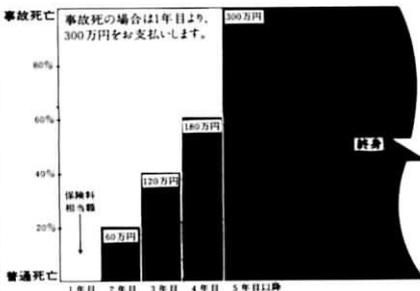
—キャンペーン実施中—

※透析導入となり全く生命保険に加入できない方に。

※加入してはいるが保険が切れるという方に。

※保障をもっと増やしたいという方に。

●40歳で保険金300万円にご契約の場合(55歳払済み)



●給付内容

①本職の事故が直接の原因でその事故の日から180日以内に死亡された場合、または法定伝染病で死亡された場合、300万円をお支払いします。

②病気で死亡された場合、

1年目—既払保険料相当額	4年目—180万円(保険金の60%)
2年目—60万円(保険金の20%)	5年目—300万円をお支払いします。
3年目—120万円(保険金の40%)	11歳

●2年目から4年目まで既払保険料が上記保険金額より多い場合は既払保険料相当額をお支払いします。

●保険料

9,540円(月払い)です。(払込期間は15年間です)保険金300万円の場合です。

●キャッシュバリュー(解約返戻金)

OK保険は長寿におたご契約になりますが、途中で解約になる場合、キャッシュバリュー(解約返戻金)をお支払いします。

たとえば、10年目におやめになった場合、636,300円をお支払いします。

- 会事務局にご連絡下されれば、道内どこでもアリコ・ジャパンより、ご説明・契約
手続に参ります。

世界を安心してネットする生命保険会社
Alico アリコ ジャパン
アメリカン ライフ インシュアランス カンパニー

〒000 札幌市中央区大通4丁目1-7 (新大通ビル6階) ☎(011)271-2515 (代表)

担当 日下部・小村

お問合せ ▶ 北海道腎臓病患者連絡協議会 事務局



小村 功

新しいマークに願いをこめて、
眞鍋は健康と幸福の飛翔に尽くします。



総合医薬品卸

眞鍋薬品株式会社

代表取締役会長 眞鍋五郎

代表取締役社長 國本和郎

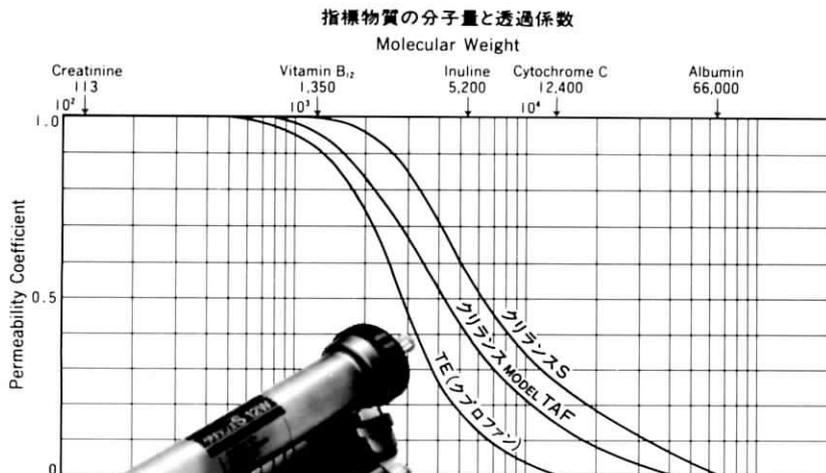
本社／旭川市2条通11丁目左2号 TEL (0166)23-5161代

支社／札幌市中央区北3条西28丁目サンテビル6F
TEL (011)644-5161代

札幌支店・岩見沢支店・札幌中央営業所・札幌南営業所
札幌東営業所・札幌北営業所・札幌白石営業所・札幌豊平営業所
恵庭営業所・札幌西営業所・旭川中央営業所・旭川病専営業所
旭川営業所・空知営業所・釧路営業所・北見営業所
苫小牧営業所・小樽営業所・室蘭連絡所・帯広連絡所
函館連絡所・留萌連絡所・旭川小売部・札幌物流センター
眞鍋DIセンター・まなべさわやかセンター(介護用品展示場)

中分子量物質の除去性能がさらに向上。

分画分子量は約48,000(阻止率95%)。低分子量タンパク質の除去を可能にしました。



- ポアサイズを大きくし、低分子量のタンパク領域までの除去を可能にしました。しかもBUN、クレアチニンの除去性能は従来通り高く、アルブミンの漏出はほとんどありません。
- 自社開発の再生セルロース膜採用のクリランスS。症例に合わせた選択の幅がさらに広がりました。
- 膜面積で0.8、1.0、1.2、1.5㎡の4種類があります。
- 扱いやすい精製水充填のオートクレープ滅菌です。

ホローファイバー型
ダイアライザー **クリランス®S**

テルモ株式会社 東京都渋谷区幡ヶ谷2-44-1

①、テルモ、クリランスはテルモ株式会社の登録商標です。

道民の健康に奉仕する
医薬品総合卸



株式会社 秋山愛生館

代表取締役社長 秋山喜代

本社 / ☎060 札幌市東区北6条東3丁目1番地
☎(011)大代表721-1161

医薬品総合卸
IBMコンピュータ販売



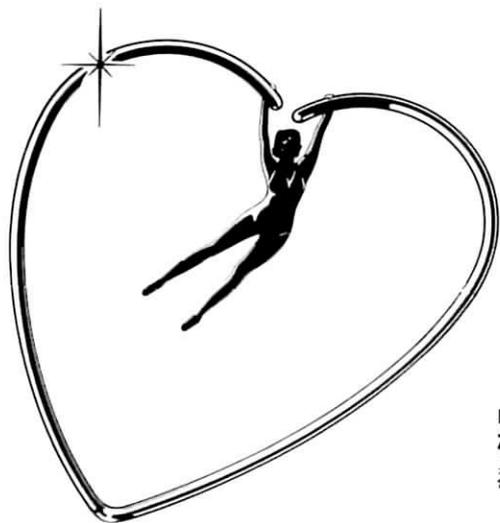
ホシ伊藤株式会社

代表取締役社長 伊藤太郎

本社 札幌市中央区南8条西14丁目1397番地
電話 大代表 <011>561-6111

支店 札幌中央第1・札幌中央第2・札幌中央第3
札幌北・札幌西・札幌東第1・札幌東第2・帯広
釧路・北見・函館・函館東・旭川・旭川南・空知・室蘭
苫小牧・岩見沢・小樽・千歳・江別・伊達・八雲・網走
稚内・遠紋・名士・留萌・根室・日高・後志・東京

健康コミュニケーション。



人類永遠のテーマ、
ライフサイエンス。
モロオは医薬品と医療の場を
確実に結びつけるパイプ役として、
ライフサイエンスに挑んでいます。
すべての人の健康のために、
地域にしっかり根ざした活動で、
これからもお役に立ちたいと考えています。

医薬品総合卸
株式会社 モロオ

本 部 札幌市中央区北3条西15丁目 ☎011-232340
営業所 札幌・札幌中央・札幌東・札幌白石・札幌北・
札幌西・旭川第1・旭川第2・滝川・釧路・室蘭・
函館・苫小牧・岩見沢・北見・帯広・小樽

62-9B52

お母さんよ、
元気人！

疲れたら、
のんで下さい。



■ビタミンは体の活性化を
スムーズにして健康を守
る大切な栄養素です。
■新ポポン錠は、最近の
食生活の変化、国民生活の
向上により、必ず必要と
なっているビタミンB群、
B群・C・D・Eとカルシウムを
分けて配合した錠剤です。
■肉体的疲労、高脂血症、
小児の発育期の栄養補助、
更年期障害、虚弱体
質、並行療法におのみで
下さい。
■成人(十五才以上)一回一錠
小児(六才以上十五才未満)
一回一錠を一日一回食後
おのみ下さい。※登録商標



ビタミン・カルシウム配合錠剤 60錠・120錠・240錠

新ポポン錠

シオノギ製薬
大阪市東区道徳町3-12-541

林 寛子

fuDa

キンドリー液 AF-1号, AF-1P号, AF-1S号

人工腎臓用透析液キンドリー液シリーズに、そのアルカリ化剤として従来の酢酸塩の代りにより生理的な重碳酸塩を用い、2剤1セットとしたAF-1号(A液・B液セット)及びAF-1P号、AF-1S号(A液・B末セット)が加わりました。

使用時にはつぎの希釈比率のバイカーボネート型サブライヤーを用いて血液透析を行って下さい。

AF-1号 A液：B液：希釈水=1：1.26：32.74

AF-1P号 A液：(B末水溶液+希釈水)=1：34

AF-1S号 A液：(B末水溶液+希釈水)=1：35.83

キンドリー液各号希釈使用時の電解質組成
(※pH調整剤 水酸基のCH₃COO⁻ 2mEq/lを含む)

◇効能・効果、用法・用量、使用上の注意は添付文書をご参照下さい。

◇包装

1号 2.5ℓ×4瓶
2号、3号、GF号 10ℓ×2瓶
AF-1号 (A液9ℓ1瓶、B液11.34ℓ1瓶)セット
AF-1P号 (A液10ℓ1瓶、B末882g120セット)×2
AF-1S号 (A液10ℓ1瓶、B末928g120セット)×2

	容量	電解質組成 (mEq/l)						ブドウ糖 (mg/l)		
		Na ⁺	K ⁺	Ca ²⁺	Mg ²⁺	Cl ⁻	CH ₃ COO ⁻		HCO ₃ ⁻	
キンドリー液	1号	2.5ℓ	134	2.6	2.5	1.5	104	36.6	-	554.5
	2号	10ℓ	132	2.0	2.5	1.5	105	33.0	-	200
	3号	10ℓ	132	2.0	3.5	1.5	104	35.0	-	200
	GF号	10ℓ	135	2.0	3.75	1.5	105.25	37.0	-	-
	AF-1号	11.34ℓ	9.7	-	-	-	-	-	-	-
キンドリー液	A液	10ℓ	135	2.5	3.5	1.5	106.5	8.0*	30	-
	AF-1P号	B末	-	-	-	-	-	-	-	-
	AF-1S号	B末	-	-	-	-	-	-	-	-

薬価基準収載品

製造発売元



扶桑薬品工業株式会社

大阪市東区道修町2丁目50番地

オステオポロシスに



〔適応症〕

- 骨粗鬆症(カプセル3ℓを除く)
 - 下記疾患におけるビタミンD代謝異常に伴う諸症状(低カルシウム血症、テタニー、骨痛、骨病変等)の改善。
- 慢性腎不全、副甲状腺機能低下症、未熟児(液のみ)、ビタミンD抵抗性ケル病・骨軟化症

〔包装〕

カプセル 0.25ℓ：100,500カプセル
(PTP包装) 0.5ℓ：100,500カプセル
1ℓ：100,500カプセル
3ℓ：100カプセル

カプセル (駄入り) 0.25ℓ：500カプセル
0.5ℓ：500カプセル
1ℓ：500カプセル

液 0.5ℓ：10ml

■「使用上の注意」、「用法・用量」は添付文書をご参照下さい。



中外製薬

〒534 東京都中央区本町2-1-9
TEL 03-2314-6611



Ca・骨代謝改善 1α-OH-D₃製剤

薬価基準収載

アルファロール液カプセル

©A1 0674



医師と共に 歩む〈竹山〉

医療器械・科学機器取扱店

NTS
BRAND

株式会社 竹山

本社／札幌市東区北6条東2丁目（札幌総合卸センター）☎代表 (011)711-0121
支店／旭川☎(0166)22-8535・函館☎(0138)49-5171・東京☎(03)814-0103
営業所／釧路☎(0154)25-2241・北見☎(0157)31-3224・帯広☎(0155)26-3900
室蘭☎(0143)45-1221

血液透析療法に—

従来、ヘパリン製剤としてはナトリウム塩が用いられてきましたが、近年ナトリウム塩は体内でCaと置換して、ヘパリンカルシウムとして作用すると考えられるようになりました。

カプロシン注は、体内でカルシウムイオンと置換することなく、より生理的な作用様式での抗凝血剤です。

● 適応症・用法ならびに使用上の注意は、製品添付の説明書をご参照ください。

抗凝血剤

カプロシン[®]注

ヘパリンカルシウム製剤



三井製薬工業株式会社

NCB-2

Computer Controlled Bedside Monitor

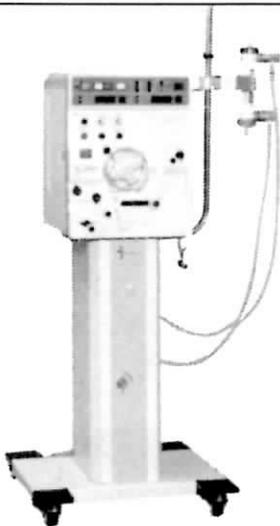
除水量自動制御機構付患者監視装置'

本装置はNCCS(Nipro Computer Controlled System)を搭載した陰圧型除水コントロール付患者監視装置です。

独自のUFコントロール機構及びDIDS(透析情報表示システム)、SCS(Self Check System)等の機能はもとより、治療に必要な周辺機器を標準装備しています。

■特長

NCCS及び配管のシンプル化により、軽量、小型化を実現通常運転以外に各種メンテナンスモードがあり、各機器の動作チェックが行え、システム異常時にはSCSにより、異常箇所を表示しフェールセーフ動作を行います。



信頼の医療器

ニプロ・グループ

株式会社  ニプロ

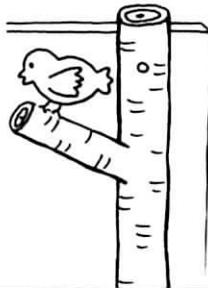
〒060 札幌市中央区北9条西19丁目35番
TEL(011)631-7311

●営業所：安芸・札幌・仙台・北関東・東関東・東京(中央)・神奈川・名古屋・京都・大阪・神戸・広島・岡山・福岡
●支店：浜川・秋田・福島・新潟・宇都宮・水戸・厚木・静岡・松本・岐阜・三重・奈良・和歌山・北九州・熊本・鹿児島

しらかば会とは

病を得てはじめて健康のありがたさを感じると言います。しらかば会は、「健康であること」の意味をだれよりも強く感じている人工透析患者グループが、自らの社会復帰と安全な食品の普及を目的に発足した会です。

人工透析患者は、週2、3回の透析治療を受けることにより、健常者とほとんど同じような生活を送ることができます。しらかば会の業務はすべて人工透析者が行っています。



しらかば会

札幌市中央区北4条西20丁目三吉ビル

☎(011)644-5855

代表 阿部 栄



1998年冬のオリンピックを旭川で！

旭川市長

坂東徹

衆議院議員
上草茂輝

宝石・貴金属・加工修理



ながの宝飾

代表 長野厚生

〒078-111 旭川市3条通19丁目左1号
☎(0166)代表32-1201番
32-1202番

月刊誌

ぐろっ旭川

旭川市五条十一丁目左四号 岩田ビル4F
TEL (0166) 251561六

十周年
おめでとう
ございます。



 **名寄三愛病院**

院長 長尾 恒

名寄市西1条北5丁目 ☎(01654)3-3911

露天風呂とスキーの
本格的リゾートホテル



●客室数74室(全室バス・トイレ付き) ●収容人員336名様(団体400名様) ●宴会場120畳・60畳2室 ●大浴場と露天風呂(男性用 フール付き)他

〒071-02 北海道上川郡美瑛町字白金温泉

 **大雪山白金観光ホテル**

TEL代(0166)94-3111 旭川営業所(0166)25-4500

祝 10周年。
新たなる発展を心から
お祈り申し上げます。

北海道知事登録2上第98号

 **株式会社 マルク**

本社 / 〒070 旭州市4条通8丁目 日本生命4条通ビル5F ☎(0166)25-0237代

サービスセンター / 〒070 旭州市5条通8丁目 北海道産ビル1F ☎(0166)22-0311

マ・ク・サービス・ステーション・ネットワーク

札幌支店	〒060 札幌市中央区北1西2札幌駅前ビル7F	☎(011)222-5361代
稚内支店	〒077 稚内市中央2丁目12番23号 NCCビル1F	☎(0162)222-5766
留萌支店	〒077 留萌市津町3丁目 北海道産ビル	☎(0164)412-1146
深川営業所	〒074 深川市津町2番25号 NCCビル1F	☎(0164)212-7889
名寄営業所	〒076 名寄市西3条南7丁目 北海道産ビル	☎(0165)413-5072
士別営業所	〒076 士別市大通1番8丁目 北海道産ビル	☎(0165)212-3817
富良野営業所	〒076 富良野市本町2番23号 北海道産ビル	☎(0167)212-2442

祝 十周年



忘、新年会
宴会の御利用
お待ちしております。

ふれあいのプレステージホテル
 旭川パレスホテル

〒070 北海道旭川市7条通6丁目
TEL(0166)25-8811

十周年おめでとうございます。

更生医療育成医療指定病院

泌尿器科
皮膚科

石田病院

旭川市1条10丁目右10号 電話(代) **26-6411**番

タオル・事務服・作業服
ワーキングウェア・白衣

M 株式会社ほくそう
(070) 旭川市1条通11丁目 腎友会ビル

☎0166 旭川(代) **25-3482**

航空券・旅行のお問い合わせ、お申し込みは……

ほくそらトラベルサービス

☎0166-25-3469

**真珠とダイヤ
特別割引中!!**

☆真珠9.5^ミ上質玉18金台
特別奉仕価格 ¥37,500円

☆ダイヤ0.40カラット
プラチナ900台ペンダント
特別奉仕価格 ¥37,500円

宝石と時計 しか沢

旭川市宮下7 駅前ビル

好評分譲中!!

深川 東光

●エステートタウン ●リバーサイドタウン

深川市稲穂町2丁目 旭川市東光22条5丁目

北海道知事免許上川(4)406

(株)道北クリーンホーム

旭川市神楽4条2丁目

☎62-3871(代)

土地・建物

売買…斡旋のご相談はお気軽に…

株式会社
高橋電機製作所

各種配電盤・自動制御盤製作
自動制御機器・電気機械設計製作販売修理

小樽市手宮1-8-5
FAX ☎25-8085
25-8128
(代)28



そば処

長五郎

台場店・旭川市神居町台場三〇八
六二―三六二二
中央店・旭川市二条買物公園
二三―五四三五



株式会社 三條ブックス

代表取締役

四方栄一

旭川市三条八丁目(買物公園)
電話(〇一六六)三二―七五四四

贈答品・引出物
記念品・医薬品

葎 旭川健生舎

旭川市1条11丁目腎友会ビル1階
電話 (0166) 24-2936 (代表)

まんが、週刊誌
6,000冊
とりそろえ

喫茶

釣天狗

旭川市宮下25丁目
TEL. 31-2715 フナイコフ

最北の町稚内

新鮮な海の幸と
おもてなし

旅 館

おとたけ

〒098-66 稚内市声間中央
TEL 0162-26-2110
26-2345

留萌市立総合病院

院長
西 條 登

留萌市寿町一丁目
電話 〇一六四四―二―一五〇〇

旭メディカル株式会社

札幌営業所

〒060 札幌市中央区南1条西4丁目
(日之出ビル)
電話 ダイヤルイン 011・221・4501(代表)

コーヒーとお食事

クインテス

札幌市東区北18条東1丁目
白夜会館1F ☎741-4578

札幌腎臓病患者友の会事務局

祝 10 周年

電気工事・ネオン工事・
消防施設工事

(有)石丸電気

〒070 旭川市7条通5丁目左1号
TEL (0166)26-5308

土地と住まいのアドバイザー

北海道宅地建物取引業協会々員
全国宅地建物取引業保証協会々員

総合企画 国土管理有限会社

代表取締役
原 田 政 憲

旭川市永山一条二丁目四十(秋月ビル一階)
電話 (〇一六六)代表 四七-〇〇七七番
宅建事業部 四七-〇〇六六番

住まいの若返り! サイディング^{及び}塗装

モルタルの上にはる
サイディングで断熱
性バツグン!

塗り替え工事

見積り無料

旭川市南5条通26丁目

(有)近代塗装

TEL. 31-1074-34-7117

株式会社 藤 田 組

取締役社長

藤 田 裕 三

上川郡東川町東十号
自宅 電話 八二-二九三〇番
電話 八二-三一九番

人工腎臓ステーション・泌尿器科

腎友会 滝川クリニック

更生医療指定

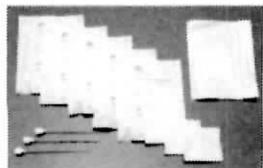
院長 菅原 剛太郎

073 滝川市有明町2丁目4番45号
電話 (0125) 代表24-2125番



社会復帰をめざした新しい透析療法
トラベノール

CAPDシステム



●**ダイアニール腹膜透析液** ダイアニールは患者さんの状態に応じて適切な除水を行なうために浸透圧の異なる3種類(1.5、2.5、4.25)の液があり、1日4回の交換の場合、その組み合わせにより幅広い処方選択ができます。バッグは軟質プラスチック製で、外気に触れることなく落差による注排液が可能で、液が空の時は折りたためるなど携帯性に優れています。

●**スパイクプロテクター** サイ클ーから切り離れた時、スパイク部を保護するもので、仕間の行動を一層広げます。



バクスター トラベノール株式会社

本社 / 東京都千代田区六番町4番地 ☎(03)237-6611
札幌支店 / 札幌市中央区北3条西1丁目(サンメモリア第一生命ビル6F) ☎(011)261-6622

札幌東クリニック

院長 江端 範名

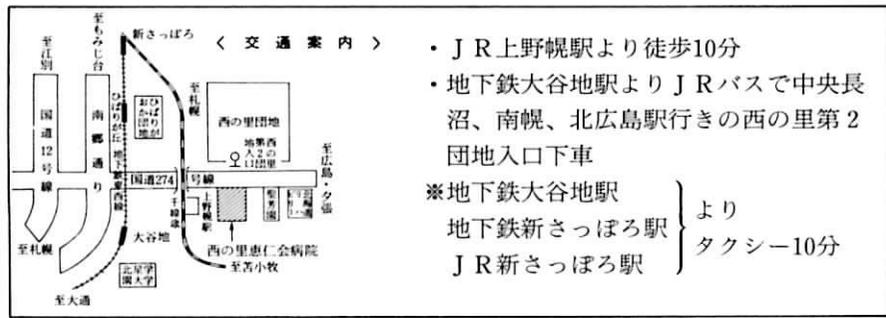
札幌市白石区南郷通 1 丁目北 2 - 25
電話 (011)863-2131

特例許可老人病院

医療法人 西の里恵仁会病院

理事長 堀川 郁英

☎ 061-11 札幌郡広島町字西の里506
電話 (011)375-3225



仁愛会外科クリニック

院 長 松 尾 喜 徳

札幌市中央区南1条西9丁目6の9
電 話 251-7338

—愛と健康の贈物—あなたの愛を道腎バンクへ—

道腎協資金造成外郭団体

腎 友 会 商 事

代 表 中 村 信 夫
鈴 木 啓 三
住 野 健 夫
飯 村 歩

札幌市中央区北1条西10丁目 ダイアパレス北1条605
電 話 (011)261-3922

編集後記

昭和五十二年十月発足した道腎協も今では、患者会員二千名をこえる組織に発展しました。そこには医療関係者、諸先輩が幾多の障害を乗り越え、不幸にして仲間を失いながら、命を賭け、血のにじむような努力で、医療の向上、福祉の前進、会の発展を築いてきたしっかりとした足跡があります。

しかるに近年、身体障害者法の適用でほとんど自己負担なしに透析が受けられる為か、会活動に対する無関心層が増大しております。「金の切れ目が命の切れ目」といわれた、昔の事を忘れないう様、会員一人一人が、会活動の一端を担うのだという自覚が重要です。その他透析をとりまく諸般の状況は年々厳しくなっています。当会も十年を迎えて一つの転機にさしかかっています。そうした意味においても、過去十年を振り返り、この記念誌が何らかの形で今後十年、二十年へ向けての活動の指針になることが出来れば幸いと思います。最後にこの記念誌発刊にあたり、心よくご寄稿された会員の皆様、特にお忙しい中、ご寄稿戴いた、行政関係の方々、医師、透析医療スタッフの皆様方には心より深く感謝いたします。また、協賛金・広告等でお世話になりました、北海道透析医学会・医薬品会社・医療機器会社・個人・会員・その他各方面の皆様は心より厚く御礼申し上げます。（編集責任者堀井

発行責任者

岩崎

薫

編集責任者

堀井

和

彦

編集委員

鈴木

啓

三

芳賀

徳

務

岡根

徳

政

福原

真

子

高道

章

飯村

歩

夫

中村

信

夫

どうじん — 北海道腎臓病患者連絡協議会
結成十周年記念誌

発行日 1987年12月30日

発行 北海道腎臓病患者連絡協議会

会長 岩 崎 薫

060 札幌市中央区北1条西10丁目

ダイアパレス北1条605

TEL (011) 261-3950

印刷 北海道機関紙印刷所
